

**Activities of the
Research Center for
Urban Safety and Security
Kobe University
(Fiscal Year 2021)**

神戸大学都市安全研究センター | 令和四年三月

神戸大学

都市安全研究センター

活動報告 第二十六号

RCUSS

Research Center for Urban Safety and Security
Kobe University

神戸大学都市安全研究センター活動報告（令和3年度）

Activities of Research Center for Urban Safety and Security Kobe University (Fiscal Year 2021)

第 26 号

目 次

1. 都市安全研究センター設置の趣旨及び沿革	1
1.1 設立の趣旨	1
1.2 沿革	2
2. 活動内容、教員構成及び組織図	3
3. 活動プロジェクト	6
4. 都市安全研究センターの運営	8
4.1 運営委員会	8
4.2 プロジェクト推進・評価	9
5. 協力教員による活動	10
5.1 協力教員構成	10
5.2 東北大学等との連携による震災復興、並びに災害科学分野における学術研究の支援経費公募	12
6. 主な設備及び備品	13
7. 野外調査・観測地及び緊急調査の実施	14
7.1 野外調査・観測地	14
7.2 緊急調査の実施	14
8. 都市安全研究センター発行物	15
9. 会議開催等	16
9.1 主催	16
9.2 共催	23
9.3 中高生への説明会	23
9.4 その他	23
10. 非公開	24
	24
	26
	28
	28
11. 国際・国内交流活動	28
12. 非公開	28
	28
	28
13. 研究費	29

13.1	科学研究費	-----29
		-----31
		-----32
		-----34
		-----33
14.	教育活動	-----34
14.1	講義科目	-----34
	非公開	-----36
		-----36
15.	研究業績	-----37
15.1	研究現状の紹介（研究テーマ）	-----37
15.2	著書	-----38
15.3	学術論文	-----39
15.4	学術報告	-----44
15.5	学術講演	-----45
16.	研究指導	-----51
16.1	博士論文	-----51
16.2	修士論文	-----51
16.3	卒業研究	-----53
付録	センター活動の報道記録	

1. 都市安全研究センター設置の趣旨及び沿革

1.1 設立の趣旨

都市安全研究センターは、「安全かつ快適な都市の理念を構築し、及びそれを実現するための手法、システムについて総合的に教育研究を行い、もって活力ある都市の創出に寄与する」ことを目的に、平成8年5月11日に設置された。

都市は、活力ある生産・経済・文化活動の場として多様で豊富な機能を備え、また潤いある生活の場として快適で良好な環境であることが求められるが、何にもまして安全で安心な場であることが求められている。しかし都市は、つねに集中化や過密化を伴う巨大で複雑なシステムであり、同時に地震や洪水等の自然災害あるいは人間活動による環境破壊や汚染によって壊滅的な打撃を受けかねない繊細なシステムでもある。

平成7年1月17日の兵庫県南部地震によって、我々は、余りにも多くの尊い犠牲を払って、都市の脆弱性をあらためて認識し、都市の安全確保のために総合的な研究の展開と遂行が必要であることを痛感させられた。神戸大学は、被災地の総合大学として、貴重な体験を基礎に、真に安全・安心な都市の創出をめざして、都市ゆえに生じる多種多様な災害についてハード及びソフトの両面から学際的かつ総合的に研究するため、その中核として研究センターの設置を文部省に申請し、これが認められて当研究センターが設立された。なお、創設にあたって、工学部附属土地造成工学研究施設は発展的に拡充改組する形で廃止され、その研究成果と研究活動は当センターに継承されることとなった。

設立10周年を迎えた平成18年4月には、全面的な改組（3大研究分野体制：リスク・アセスメント、リスク・マネジメント、リスク・コミュニケーション）を行い、「防災」と「減災」の両面に立脚した、より積極的に住民の命を守ることを目的とした安心・安全な社会の構築を目指す仕組みや手法の研究を推進していくこととなった。

1.2 沿革

平成8年5月11日	神戸大学都市安全研究センター 新設 都市構成研究分野（教授1名，助教授1名） 都市基盤研究分野（教授2名，助教授2名，助手1名） 都市地震研究分野（教授1名，助教授1名） 都市安全医学研究分野（教授1名，助教授1名） 都市行政産業基盤研究分野（客員教授2名） 工学部長 片岡 邦夫 教授 センター長に就任
平成9年4月1日	都市情報システム研究分野（教授1名，助教授1名，助手1名）増設
平成10年4月1日	工学部長 北村新三 教授 第2代センター長に就任
平成10年4月9日	都市安全マネジメント研究分野（教授1名，助教授1名）増設
平成12年4月1日	工学部長 森脇俊道 教授 第3代センター長に就任
平成16年4月1日	工学部長 薄井洋基 教授 第4代センター長に就任
平成18年4月1日	3大研究分野へ改組（教員16名，客員2名） リスク・アセスメント大研究分野 リスク・マネジメント大研究分野 DMAT・災害支援特別部門（助教授1名 3年時限） リスク・コミュニケーション大研究分野
平成19年2月16日	工学部長 森本政之 教授 第5代センター長に就任
平成19年4月1日	沖村孝 教授 第6代センター長に就任
平成20年4月1日	有木康雄 教授 第7代センター長に就任
平成22年4月1日	田中泰雄 教授 第8代センター長に就任
平成24年4月1日	飯塚 敦 教授 第9代センター長に就任
平成26年4月1日	北後明彦 教授 第10代センター長に就任
平成28年4月1日	大石 哲 教授 第11代センター長に就任
平成30年4月1日	長尾 毅 教授 第12代センター長に就任
令和2年4月1日	吉岡祥一 教授 第13代センター長に就任

2. 活動内容，教員構成及び組織図

リスク・アセスメント研究分野

地震，津波，豪雨などの自然災害及び環境破壊，事故，火災などの人為災害に対する都市機能，生活環境の靱性能の定量的評価と防災・減災を目的にした施策を学際的に研究する．地震メカニズムの解明，都市環境に対する災害リスクの同定と定量化，防災・減災を主眼とした安全環境整備への方策を追究し，安全・安心で環境負荷の少ない都市の創生・再生へ向けてのシナリオ・マップの策定を目指す．

地震災害リスク評価研究分野

教授	吉岡祥一
准教授	廣瀬 仁
特命助手	末永伸明

地盤環境リスク評価研究分野

教授	飯塚 敦
特命准教授	銭谷誠司
准教授	橘 伸也

リスク・マネジメント研究分野

都市災害が発生した時，社会が災害から受ける影響を最小とするための方策について研究する．具体的には，都市施設，医療・生活，行政・経済面の災害発生時における緊急対応の方法，被災社会の復旧・復興過程における短気・中長期の視野に基づく各項目で取りうる最適な方策及び災害発生時の影響を最小にするために，都市施設，医療・生活，行政・経済の各システムについて事前に整備しておくべき方策などについて研究する．

社会基盤マネジメント研究分野

教授	長尾 毅
----	------

減災エリアマネジメント研究分野

教授	北後明彦
准教授	藤永 隆

産業・経済危機管理マネジメント研究分野

外国人研究員

寥 解放	(令和4年1月～令和4年3月)
SWARNALI CHAKMA	(令和4年1月～令和4年3月)

客員研究員

客員教授	金治英貞	(平成29年度前期～)
客員教授	佐々木千穂	(令和3年4月1日～令和3年9月30日)
客員准教授	POTUTAN GERALD EJEM	(令和3年10月1日～令和4年3月31日)
	吉田龍二	(平成30年10月～)

リスク・コミュニケーション研究分野

都市域における防災・減災を達成するため、リスク・コミュニケーションによる人々のリスク認識の向上や意志決定のサポートなどの手法について研究する。具体的には、住民や各機関との双方向の情報通信手段や防災教育に関する研究ならびに先端技術を応用した災害情報共有のための災害情報モニタリング、災害情報収集システムに関する研究を行う。

情報コミュニケーション研究分野

教授 滝口哲也
准教授 高島遼一

安全コミュニケーション研究分野

教授 大石 哲
特命教授 梶川義幸
准教授 小林健一郎
特命助教 山浦 剛

感染症リスクコミュニケーション研究分野

教授 岩田健太郎
准教授 大路 剛

協力研究部門

災害緊急医療学研究分野

教授 小谷穰治
准教授 山田 勇

災害健康保健学研究分野

教授 和泉比佐子
准教授 小寺さやか

災害時のこころのケア研究分野

教授 曾良一郎

減災人間学研究分野

教授 松岡広路

減災社会システム研究分野

教授 金子由芳

災害経済学研究分野

教授 萩原泰治

減災社会システム研究分野

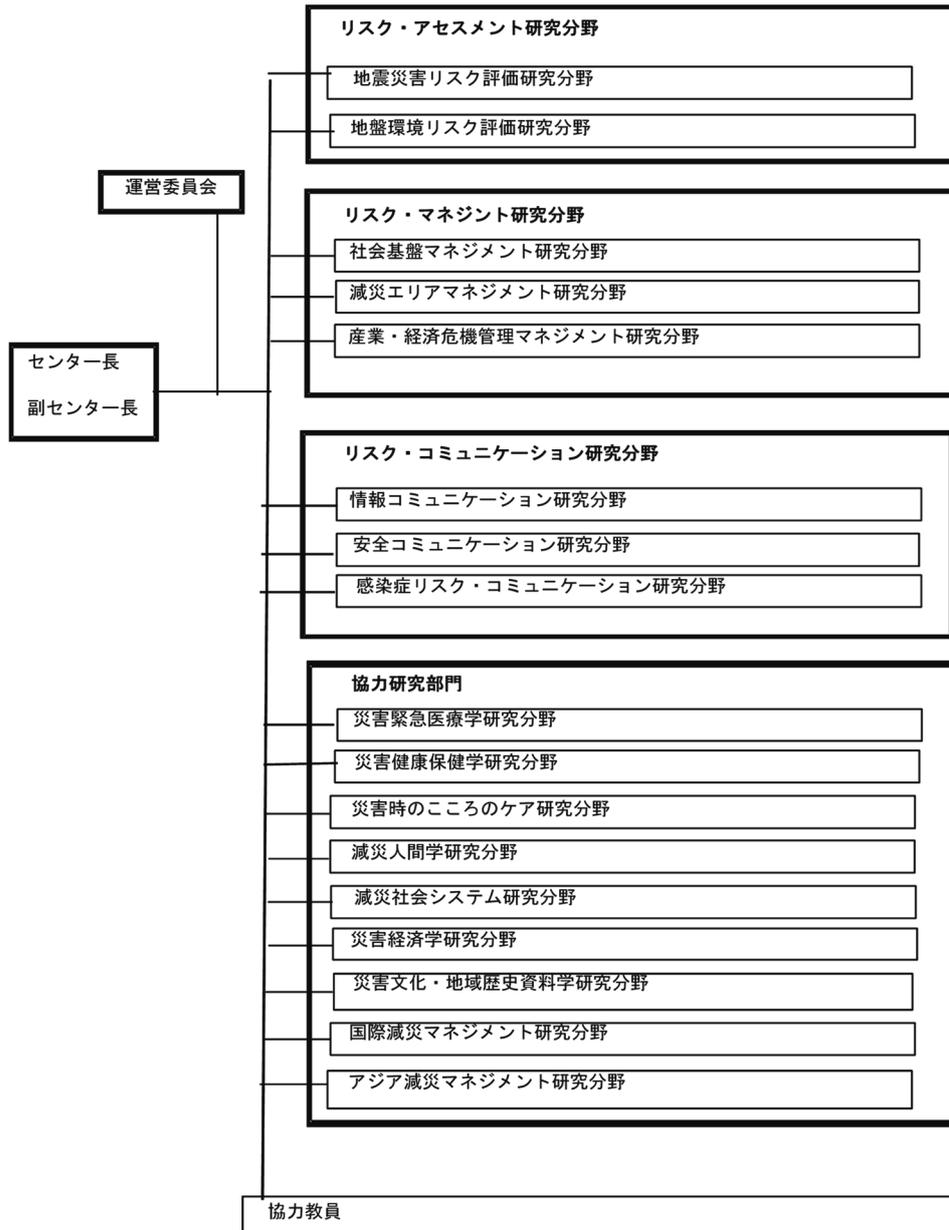
教授 奥村 弘

国際減災マネジメント研究分野

客員教授 佐藤 睦

アジア減災マネジメント研究分野

客員教授 鈴木弘二



都市安全研究センター組織図
(令和 4年 3月 31日 現在)

3. 活動プロジェクト

リスク・アセスメント研究分野

地震発生の場合と波動伝搬の解明に向けた研究

3次元熱対流プレート沈み込みモデルの構築
動的断層破壊モデルの構築
GNSSデータを用いたプレート境界における固着・すべりの推定
津波の数値シミュレーション研究
SSEと群発地震の連動メカニズムの解明

持続可能な減災社会インフラ構築のための地盤安全環境評価手法の確立

液状化などの地盤の動的挙動を表現できる数値シミュレータの高度化
地盤物性の空間分布の把握と推定に基づく広域地盤モデル作成
深海底地盤のインフラとしての活用を見据えた力学特性の把握
プレート境界デコルマ帯における粘土鉱物の変質に伴う力学特性変化の定量化とスロースリップ現象の説明
放射性廃棄物地層処分におけるベントナイト緩衝材の長期安定性評価のための数理モデルの開発
宇宙プラズマ中の磁気リコネクションのシミュレーション研究
ディープラーニングを使った図面からの情報抽出技術

リスク・マネジメント研究分野

社会基盤施設の耐震設計法の合理化に関する研究
社会基盤施設の設計地震動の合理化に関する研究
サイト増幅特性の評価法の開発
社会基盤施設の耐震性能照査法の合理化に関する研究

減災エリア・マネジメントによる安全安心コミュニティ構築に関する研究
津波浸水地域及び木造密集地域における減災エリアマネジメントに関する研究
人口集中都心における減災エリアマネジメントに関する研究
復興段階の被災地における減災エリアマネジメントに関する研究
アジアを中心とする発展途上国における減災エリアマネジメントに関する研究

リスク・コミュニケーション研究分野

健常者・障がい者に対するユニバーサルな災害情報収集及び提供システムの研究
情報検索/音声質問検索に関する研究
コンピュータビジョンに関する研究

予測の不確実性を含んだ水災害軽減に関する基礎および実践的研究
スーパーコンピュータ「富岳」を利用した洪水モデリング
豪雨災害の探知・予測システムの検討に関する研究
気候システムに関する研究
市民へのリスク・コミュニケーションに関する研究

新型コロナウイルス感染症など新興・再興感染症対策に関する研究
耐性菌感染症に関する研究
感染症多施設臨床研究プロジェクト
感染症迅速診断に関する機器開発

4. 都市安全研究センターの運営

4.1 運営委員会

4.1.1 運営委員会構成（要確認）（令和3年7月1日現在）

センター長	教授	吉岡 祥一	(都市安全研究センター)
副センター長	教授	飯塚 敦	(都市安全研究センター)
	教授	岩田健太郎	(都市安全研究センター)
	教授	大石 哲	(都市安全研究センター)
	教授	滝口 哲也	(都市安全研究センター)
	教授	北後 明彦	(都市安全研究センター)
	教授	長尾 毅	(都市安全研究センター)
	教授	島 伸和	(理学研究科)
	教授	上野 易弘	(医学研究科)
	教授	藤谷 秀雄	(工学研究科)
	教授	羅 志偉	(システム情報学研究科)
	教授	松岡 広路	(人間発達環境学研究科)
	教授	和泉比佐子	(保健学研究科)
	教授	金子 由芳	(国際協力研究科)
	客員教授	鈴木 弘二	(都市安全研究センター)
	客員教授	佐藤 睦	(都市安全研究センター)

(以上 16名)

4.1.2 運営委員会開催状況

令和3年度第1回運営委員会

1) 日時：令和3年7月30日（金）8：50～9：30

2) 実施方法：オンライン会議（ZOOM）

3) 議事次第

報告事項

(1) 教員等の異動について

(2) 都市安全研究センターの活動報告と計画について

審議事項

(1) 令和2年度決算及び令和3年度予算配分（案）について

(2) 客員研究員の採用および客員准教授の称号付与について

(3) 招へい外国人研究者の受入れ及び神戸大学招へい教授の称号付与について

その他

令和3年度第2回運営委員会

- 1) 日 時：令和4年1月31日（月）13：20～13：50
- 2) 実施方法：オンライン会議（ZOOM）
- 3) 議事次第
報告事項
（1）教員等の異動について
（2）都市安全研究センターの活動報告と計画について

審議事項
（1）センター長候補者の選考について
（2）客員研究員の採用について
（3）学術研究員の雇用について
その他

4.2 プロジェクト推進・評価

4.2.1 プロジェクト推進・評価委員会構成

山平 晃嗣氏：神戸市危機管理監
藤原 俊平氏：兵庫県防災監
長沼 隆之氏：神戸新聞社論説副委員長
小堀 一幸氏：（一財）アジア防災センター 管理部長
中安 伸一氏：国際復興支援プラットフォーム 主任研究員
中山 伸一氏：兵庫県災害医療センター センター長
平原 和朗氏：京都大学名誉教授 理化学研究所革新知能統合研究センター 嘱託職員
池淵 周一氏：京都大学名誉教授 （公財）河川財団近畿事務所 研究フェロー
太田 秀樹氏：東京工業大学名誉教授 中央大学研究機構 教授
上田 敬博氏：鳥取大学医学部附属病院救命救急センター 教授

4.2.2 プロジェクト推進・評価委員会開催状況

- 1) 日時：令和4年3月28日（月） 13：00～15：00
- 2) 開催方式：オンライン開催
- 3) 次第
（1）開会挨拶（吉岡センター長）
（2）委員自己紹介
（3）座長選出
（4）センター活動・研究内容の概要説明（吉岡センター長）
（5）プロジェクト研究報告と研究計画
（各プロジェクトへの質疑応答を含む）
（6）未来世紀都市学研究ユニット説明
（7）未来世紀都市学研究ユニットに関する質疑応答
（8）閉会挨拶（飯塚副センター長）

5. 協力教員による活動

5.1 協力教員構成

(令和3年12月現在)

理事 (3名)	奥村 弘 大村 直人 河端 俊典	
人文学研究科 (2名)	教 授 藤田 裕嗣 (文化構造専攻) 教 授 市澤 哲 (社会動態専攻)	
国際文化学研究科 (6名)	教 授 大月 一弘 (グローバル文化専攻) 教 授 藤野 一夫 (グローバル文化専攻) 教 授 王 柯 (文化関連専攻) 教 授 塚原 東吾 (文化関連専攻) 准教授 井上 弘貴 (文化関連専攻) 准教授 安岡 正晴 (文化関連専攻)	
人間発達環境学研究科 (5名)	准教授 齊藤 誠一 (人間発達専攻) 教 授 浅野 慎一 (人間環境学専攻) 教 授 平山 洋介 (人間環境学専攻) 教 授 澤 宗則 (人間環境学専攻) 教 授 太田 和宏 (人間環境学専攻)	
経済学研究科 (1名)	教 授 玉岡 雅之 (経済学専攻)	
経営学研究科 (1名)	教 授 水谷 文俊 (経営学専攻)	
理学研究科 (1名)	助 教 笥 楽磨 (惑星学専攻)	
医学研究科 (1名)	教 授 上野 易弘 (医科学専攻)	
保健学研究科 (2名)	教 授 中澤 港 (保健学専攻) 特命教授 吉本 雅彦	
工学研究科 (24名)	教 授 阪上 公博 (建築学専攻) 教 授 孫 玉平 (建築学専攻) 教 授 多賀 謙蔵 (建築学専攻) 教 授 田中 剛 (建築学専攻) 教 授 中江 研 (建築学専攻)	

教授	藤谷	秀雄	(建築学専攻)
教授	向井	洋一	(建築学専攻)
准教授	大谷	恭弘	(建築学専攻)
准教授	栗山	尚子	(建築学専攻)
准教授	近藤	民代	(建築学専攻)
准教授	佐藤	逸人	(建築学専攻)
准教授	竹林	英樹	(建築学専攻)
助教	竹内	崇	(建築学専攻)
教授	芥川	真一	(市民工学専攻)
教授	小池	淳司	(市民工学専攻)
教授	澁谷	啓	(市民工学専攻)
教授	中山	恵介	(市民工学専攻)
教授	森川	英典	(市民工学専攻)
准教授	加藤	正司	(市民工学専攻)
准教授	鍬田	泰子	(市民工学専攻)
准教授	齋藤	雅彦	(市民工学専攻)
教授	竹野	裕正	(電気電子工学専攻)
教授	塚本	昌彦	(電気電子工学専攻)
教授	阪上	隆英	(機械工学専攻)

海事科学研究科 (2名)

教授	竹林	幹雄	(海事科学専攻)
准教授	岡田	順子	(海事科学専攻)

農学研究科 (5名)

教授	河端	俊典	(食料共生システム学専攻)
教授	田中丸	治哉	(食料共生システム学専攻)
准教授	井上	一哉	(食料共生システム学専攻)
准教授	多田	明夫	(食料共生システム学専攻)
准教授	澤田	豊	(食料共生システム学専攻)

国際協力研究科 (2名)

教授	ALEXANDER RONNI BARR (国際協力政策専攻)		
教授	小川	啓一	(地域協力政策専攻)

国際連携推進機構国際教育総合センター (3名)

教授	朴	鍾祐	
准教授	HARRISON RICHARD JOH		
准教授	黒田	千晴	

男女共同参画推進室 (2名)

コーディネーター	谷	明勲	
政策研究職員	中原	朝子	

科学技術イノベーション研究科 (1名)

教授	太田	能	(科学技術イノベーション専攻)
----	----	---	-----------------

先端融合研究環 (1名)

教授	松田	毅	
----	----	---	--

情報基盤センター（1名）
助 教 米森 秀登

（以上63名）

5.2 東北大学等との連携による震災復興、並びに災害科学分野における学術研究の支援経費公募

採択課題（12件）

アレキサンダー ロニー
震災後の復興及び地域コミュニティの再構築において安全安心を基にした創造型コミュニケーション・スキルの開発

寛 楽磨
島弧のゆれ方：東北日本と北海道での地震の震源特性と波動伝播

曾良 一郎
災害派遣精神医療チーム DPAT（Disaster Psychiatric Assistance Team）の災害支援のあり方

梅屋 潔
包摂のツールとしての民俗芸能—コミュニティの外延として

林 美鶴
センシングデータとシミュレーションデータを融合した塩分ビッグデータの構築（マリンハザード研究）

奥村 弘
災害資料の保存・活用の実践的研究—阪神大震災の知見を基礎として—

藤田 裕嗣
東日本大震災における地域共同体を焦点にした復興支援事業の意味—台湾を見通して—

川畑康治
自然災害と労働市場、産業構造に関する実証分析

山本雅昭
新型コロナ後遺症における内分泌機能障害のスクリーニング法の開発と疫学調査

近藤 民代
オープン衛星画像データを用いた復興期に形成される災害リスク変容評価手法の構築

槻橋 修
復興過程における被災地の記憶継承方法に関する研究

鍛田 泰子
中山間地域の激甚災害後のライフライン復旧戦略に関する研究

6. 主な設備及び備品

リスク・アセスメント研究部門

- ・ 反射法地震波探査装置 (DAS-1) (Oyo Geospace Data Logger)
- ・ 地震観測装置 3式
- ・ 模型土槽
- ・ 三軸試験装置 (静的、繰返し試験用) 2式
- ・ 高圧圧密試験機 (二連型) (MARUI)
- ・ 万能圧縮試験機 (MARUI)
- ・ スマート三軸試験機 1台 (応用地質株)

リスク・マネジメント研究部門

- ・ 赤外線サーモグラフィ TVS-700 1台
- ・ 微動センサー 2台
- ・ 強震・微動計 6式
- ・ 三軸試験装置 2式
- ・ 繰返しねじりせん断試験機 (アスファルト供試体用)
- ・ 小型FWD (FWD-Light) 試験機 (共同利用可能)
- ・ アルミ棒積層体模型載荷試験装置 (共同利用可能)
- ・ 大型盛土実験スペース {4m (長) x 2m (幅) x 3m (高)} (共同利用可能)

リスク・コミュニケーション研究部門

- ・ 電子セオドライト (SOKKIADT4F)
- ・ ノンプリズム光波距離計 (MM100)
- ・ GNSS 大気遅延量計測装置 (Trimble NetR9) 2台

各部門共通

- ・ トヨタハイエース (CBF-TRH200V) 1台

7. 野外調査・観測地及び緊急調査の実施

7.1 野外調査・観測地

リスク・アセスメント研究部門

- ・豊後水道周辺GPS観測

リスク・マネジメント研究部門

- ・東日本大震災後の復興調査
- ・2018年西日本豪雨の避難及び復興調査

リスク・コミュニケーション研究部門

- ・大阪湾周辺：Xバンドおよびミリ波レーダー，境界層レーダー，GPS水蒸気探知
- ・勝浦市周辺：Xバンドレーダー，雨滴計，間隙水圧計，土壌水分計

7.2 緊急調査の実施

なし

8. 都市安全研究センター発行物

- ・第16回都市安全研究センタープロジェクト推進・評価諮問委員会報告書（令和元年度・令和2年度）（令和3年7月）
- ・神戸大学都市安全研究センター第2回震災復興・災害科学シンポジウム 震災復興への多彩なアプローチ 実施報告書（令和4年3月）
- ・都市安全研究センター研究報告第26号(令和4年3月)
- ・都市安全研究センター活動報告第26号(令和4年3月)

9. 会議開催等

9.1 主催

神戸大学都市安全研究センター第2回震災復興・災害科学シンポジウム震災復興への多彩なアプローチ

日時： 令和 4年 1月 22日（土）13:00～17:20

会場： オンライン開催

プログラム

13:00 - 13:05 開会挨拶 吉岡 祥一（神戸大学都市安全研究センター センター長）

13:05-13:45 被災地の10年と、レジリエンス概念の再検討

梅屋 潔（神戸大学国際文化科学研究科 教授）

13:45-14:25 東日本大震災10年被災歴史資料と震災資料保存活用の新展開

奥村 弘（神戸大学人文学研究科 教授）

14:25-15:05 沿岸域災害の居住移転によるリスク変容評価と土地利用再編

近藤 民代（神戸工学研究科 准教授）

15:15 -15:55 「記憶の街ワークショップ」の10年と成果の現状

槻橋 修（神戸大学工学研究科 准教授）

15:55 -16:35 東日本大震災からの下水道施設の震災復興プロセス

鍬田 泰子（神戸工学研究科 准教授）

16:35 -17:15 新型コロナ後遺症における内分泌機能障害のスクリーニング法の開発と疫学調査

山本 雅昭（神戸大学医学研究科 特定助教）

17:15 - 17:20 閉会挨拶 飯塚 敦（神戸大学都市安全研究センター 副センター長）

参加者：147名（大石・橘）

オープンゼミナール

<第266回神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年4月17日（土）14時～17時

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授 聴：ライブ動画配信

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス

① 東日本大震災における移転再建を伴う復興プロセス

－岩手県大船渡市における市街地・住宅地再建－

澤田 雅浩 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授

岩手県大船渡市は、明治三陸、昭和三陸、チリ地震津波でも被害を受けている。東日本大震災では三陸沿岸の市町の中では被害はそこまで大きくはなかったものの、市街地の被害は大きくなった。市街地の再建、住宅の移転再建に関しては、人口減少社会の到来や、再建意向の変化に伴って元に戻す、だけではない計画推進が必要となった。ここでは、当初計画の策定状況とその後の修正プロセスを概観しながら面的に浸水被害が生じた市街地の再建のありようを考えた。

② 巨大地震津波リスクに対する行政の役割及び減災・防災対応に関する日米比較研究

－東日本大震災の被災都市と米国ワシントン州ウエストポート市に着目して－

栗山尚子 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授

環太平洋火山帯周辺の沿岸地域は、大地震と津波のリスクを共有している。米国のワシントン州の沿岸地域は、カスケディア沈み込み帯（CSZ）で予想されるマグニチュード9（M9）の大地震の後に津波が来るリスクが高いと言われている。本研究では、日本の東日本大震災の経験での復興内容と、米国ワシントン州ウェストポート市の将来の地震・津波リスクをふまえた防災計画に着目し、災害の軽減と復興に向けた行政の役割や減災・防災対応に関する比較研究の成果を報告した。

参加者： 83 人（北後）

<第267回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年5月15日（土）14時～17時

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：橋 伸也 神戸大学都市安全研究センター准教授 主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス

① 富岳を用いた減災のための都市のデジタルトランスフォーメーション

大石 哲 神戸大学都市安全研究センター教授

岩外力に対して「もの」の耐力の方が上回っていることが安全の定義であった時代には、それぞれの個体を設計する際に想定外力よりも強く作ってあれば事足りた。しかし、現在では災害が起こったときに衣食住ならぬ「医職住」の不足や欠落がないことが求められる「こと」の時代になってきて、インフラにもあらゆる場面での一定の機能維持が求められるようになった。そのような社会では、企業が持つ施設・人的資源の外力に対する耐力を知るためであっても、自社以外のサービスの健全性把握が必要になる。しかし、それらを平時から完全に確保するような仕組みや施設を維持することは非効率であり経営的に不可能である。そのような中では、企業の施設だけでなく関係する全ての要素を包含して計画を立てておく必要があり、そのためには複合的で広域のシミュレーションを行うことが求められる。それが都市の大規模数値シミュレーションである。現実の都市をシミュレーションするためには、現実の都市の情報が必要であり、正確には各建物や各施設の柱やはりの1本1本の断面、部材、位置、地下構造物の位置などである。データはあるがシミュレーションに活用できない障壁を下げ、都市のデジタルトランスフォーメーションを実現するための方法について説明する。また富岳を用いた防災減災研究の方向性についても説明した。

② 都市デジタルツイン技術を活用した民による国土強靱化

ー自然災害への対時的な防災・減災からの脱却ー

飯塚 敦 神戸大学都市安全研究センター教授

2016年、理研AICS@神戸において、神戸丸ごとシミュレーションが行われた。仮想空間内に神戸の街が再現された。都市デジタルツインである。これによって、多種多様な災害リスクが定量化される。一方で、企業価値の向上に非財務情報が重視されるようになってきた。都市デジタルツインにより、その企業が晒される災害リスクが具体化され、その低減への投資が企業価値の向上に結び付く構図が現れてきた。すなわち、平時の経済活動が国土の強靱化につながる図式である。この具体化を検討した。

参加者： 93 人（北後）

<第268回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年6月19日（土）14時～17時

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス

① 災害の多様性と大学の防災チャレンジ

伊藤 康人 大阪府立大学大学院理学系研究科物理科学専攻教授

地球のダイナミックな営みを反映し、自然災害は多様性に富んでいる。そして、生活の効率が最優先される大都市圏は多様な災害に極めて脆弱である。講演では、人口密集地を抱える大阪平野の地盤の成り立ちと、それに関連する災害特性について、最新研究成果を紹介する。また、そこに立地する大阪府立大学で、学生が主体的に取り組む防災・地域貢献活動について紹介した。

② 持続可能な地域の防災活動ーフェーズフリーな防災対策ー

秦 康範 山梨大学大学院総合研究部工学域土木環境工学系准教授

大きな災害が発生すると一時的に防災への関心は高まりますが、忙しい日常の中で防災意識を継続することは容易ではありません。そこで、日常時と非常時の垣根をなくすフェーズフリーという考え方が、近年さまざまなセクターで注目されています。持続可能な地域の防災活動のための取り組みと、フェーズフリーな防災対策について、皆さんと一緒に考えた。

参加者： 90 人（北後）

<第269回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年7月17日（土）14時～17時

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：長尾 毅 神戸大学都市安全研究センター教授

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス

① 建設事業のプロセスを改革するBIM/CIM(建設生産・管理情報をモデル化したシステム)

森 博昭 中央復建コンサルタンツ(株)総合技術本部 ICT戦略室 室長

ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）を活用した社会インフラ整備の高度化・効率化は社会的要請である。国土交通省では、3次元データを基軸とした建設生産・管理を目指すBIM/CIM（Building/ Construction Information Modeling, Management）を2023年度までに国土交通省直轄事業の全案件で適用する目標を掲げている。ここでは、BIM/CIMの概要と、社会インフラ詳細設計でのBIM/CIM取り組み事例を紹介した。

② BIM/CIMからインフラDX（デジタル化による業務変革）への進化

勝 俣優 中央復建コンサルタンツ(株)構造系部門 港湾・空港グループ サブリーダー

近年、ICTを最大限に活用して市民の生活をよりよいものへと変革するDX（デジタル・トランスフォーメーション）が注目されている。ここでは、社会インフラ整備におけるDXの取り組みとして、DXのプラットフォームとなるBIM/CIMの取り組み事例と、BIM/CIMモデルにMR（Mixed Reality：複合現実）を掛け合わせたインフラDXの先進事例を紹介する。ICTによりダイナミックな進化を続ける建設事業の今を感じていただきたい。

参加者： 57 人（北後）

<第270回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年8月28日（土）14時～17時

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学減災デザインセンター、神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス

① 宇宙からの防災ー人工衛星による防災活動（技術運用）

川北 史朗 JAXA第一宇宙技術部門衛星利用運用センター 技術領域主幹

災害時は被害状況を把握するために天候や昼夜を問わず広範囲の観測ができる人工衛星が活用されている。今回は人工衛星による防災活動について実際の活動例を中心に紹介した。

② 宇宙からの防災ー人工衛星による防災活動（国際協力）

鈴木 弘二 神戸大学都市安全研究センター客員教授、アジア防災センター プロジェクトディレクター

人工衛星による防災活動は、多国間あるいは二国間での国際協力の場でも取り組みが進められている。今回は、画像解析による災害状況の把握や準天頂衛星による防災情報の提供についての実際の活動例を中心に紹介した。

参加者： 97 人（北後）

<第271回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年9月25日（土）14時～17時

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局、神戸大学社会システムイノベーションセンター
神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス、神戸大学減災デザインセンター

テーマ：東日本大震災復興意識調査から読み解く復興十年の現状と課題

東日本大震災復興十年を契機に、復興評価の様々な取り組みが行われているが、復興計画の物理的進捗に関する調査や被災地の県域全体を対象とした意識調査等が散見され、必ずしも現実に津波被害に遭遇した被災地・被災者の見解が反映されているとは限らない。そこで、2020年3月～10月に岩手県・宮城県の沿岸被災地13市町で大きな被災を受け、区画整理や防災集団移転等の復興事業が集中的に行われた16地区にて住民意識調査を実施するとともに（配布7,895件、回収1,273件、回答率16.1%）、岩手県宮古市・山田町・大槌町・釜石市の商工会議所・商工会の協力で商工者復興意識調査を実施した（配布2,766件、回収568件、回答率20.5%）。本ゼミナールでは、同調査に関与した神戸大学都市安全研究センターを拠点とする共同研究者のほか、被災地の住民・事業者・行政担当者がオンライン参加し、討論を通じて教訓を深め、被災者の主観的な復興評価を読み解いた。

- ① 生活復興意識調査の結果解析：生活復興カレンダーを中心に
本荘雄一 兵庫県立大学特任教授
- ② 地域経済の視点を組み込む復興計画への課題
金子由芳 神戸大学社会システムイノベーションセンター教授
神戸大学都市安全研究センター教授
- ③ コミュニティ復興の現状と課題
塩見有美 アジア防災センター主任研究員
- ④ 住民・事業者・行政担当者との共同討論
豊田利久 神戸大学名誉教授（ファシリテーター）

参加者： 102 人（北後）

<第272回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年10月23日（土）14時～17時

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

視聴：ライブ動画配信

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス・減災デザインセンター

- ① 降雨による土砂災害を少なくするために

沖村 孝 神戸大学名誉教授、一般財団法人 建設工学研究所 代表理事

近年の降雨パターンは従来とは異なり、時間雨量80ミリを超える強雨型が各地で頻繁に出現する一方、降雨強度は大きくないが72時間降雨量が大きい弱雨型の降雨も頻繁に出現している。このような降雨特性に違いは、土砂災害の違いにも影響し、強雨型では土石流が、弱雨型では規模は小さいが表層崩壊型が多発する傾向がある。降雨による土砂災害を少なくす

るためには、降雨中や避難中にあらかじめ土砂災害形態を予想することは困難であり、早めの避難行動が要求される。少しでも避難行動を早めに、かつ効果的に実行するためには、降雨の特徴を早めに理解するとともに、地域における土砂災害の過去の履歴を学習しておくことも大切であろう。そのためには、普段からの広範な行動が大切であり、いろいろな散歩道を開拓することも必要と思われる。

② 地震・豪雨災害にかかる人為的要因を軽減する事前対策の現状と課題

橋本 隆雄 国士舘大学工学部理工学科まちづくり学系教授

甚大な被害をもたらした2011年東日本大震災から今年で10年が経過したが、今後も首都圏直下地震及び南海トラフ巨大地震対策が高い確率で発生することが予想されている。このためには、災害前から復興を検討しておく「事前復興」の考え方が非常に重要となる。しかし、多くの自治体では、過疎化・高齢化が進み人口や経済が横ばいや減少の情勢下において十分に検討ができていない。一方、静岡県熱海市では、2021年7月3日に梅雨前線による大雨に伴い標高約390m地点で発生した大規模盛土崩壊が土石流化し、下流に住んでいる多くの人命を失い家屋被害など人為的要因による甚大な被害が発生した。そこで、これまでの宅地被害の地震・豪雨災害にかかる人為的要因を軽減する事前対策の現状を踏まえ、今後、関係諸機関や住民の皆様が協力して一歩でも災害の課題に備えておく必要がある。

参加者： 91 人（北後）

<第273回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年11月27日（土）14時～17時

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：滝口 哲也 神戸大学都市安全研究センター教授

主催：神戸大学都市安全研究センター

共催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス・減災デザインセンター

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

① 災害時の医療活動

成松 紀子 独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院 麻酔科部長・集中治療部長

災害時の医療については、医療施設の被災や、多数傷病者の発生などにより、限られた人的・物的医療資源で膨大な負傷者に対応しなければならないという特徴がある。救急医療と異なり災害医療は医療資源と傷病者のバランスが崩れ、通常の医療体制が維持できない事態が起り得る。災害医療では、医療機関同士の連携のみならず、行政や関係機関との横の連携も重要になってきます。大規模事故・災害が起こった際にどのように医療体制を構築していいのか、災害派遣医療チームDMATについての話題を交えて話をした。

② 保健医療系大学における減災教育の取り組み

佐々木 千穂 熊本保健科学大学 地域包括連携医療教育研究センター 教授

熊本保健科学大学では、平成24年度から「災害時における保健医療」という科目を設置し、授業の中で減災教育に取り組んできた。また、同科目を連携して行っている熊本大学・熊本県立大学と共に「減災型地域社会のリーダー」の養成・認定を行ってきたほか、消防署等との協働のもとに集団災害訓練の実施や防災サポーター活動なども継続的に行っている。令和2年度の熊本県南地域の豪雨災害においては、コロナ禍の中で学生ボランティアを派遣するなどの実践を通じ、学生教育および地域貢献へ取り組んできた。本ゼミナールでは、これまでの本学における減災教育に関連した諸活動および、保健医療系大学における減災教育の意義について報告した。

参加者： 76 人（北後）

<第274回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日時：2021年12月25日（土）14時～17時

会場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司会：北後 明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

主 催：神戸大学都市安全研究センター

共 催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス・減災デザインセンター

科研費挑戦的研究(萌芽)「首都直下地震等大規模災害のセーフティネットとしての準
公営住宅の国際比較研究」

① ニュージーランド・カンタベリー地震の復興過程と住居の保障

武田真理子 東北公益文科大学大学院公益学研究科長・教授

ニュージーランドでは、2010年9月4日と2011年2月22日に南島のクライストチャーチ市近郊
で度重なる大地震が発生し、その短い歴史の中でも最も大きな人的及び物的被害を経験する
こととなった。東日本大震災の発生時期と重なったため、比較をされることもあるが、その
復興過程は日本と大きく異なる。本報告ではその背景として、世界初の全国民を対象とする
税方式による社会保障制度の構築、徹底した行財政改革の実施、政治や社会活動をはじめと
する幅広い分野における市民参加の実現などの社会制度の特徴があることを紹介し、住宅政
策を中心にニュージーランド・カンタベリー地震の復興過程について話をした。

② 避難所外避難者の支援と課題

山崎 栄一 関西大学社会安全学部教授

避難所外避難者としては、在宅避難者やテント・自家用車といったところに生活している
人を想起するが、そもそも避難所とは何かという問いから出発しながら、避難所外避難者が
法制度上、どのように位置づけられ、どのように支援されるのかについて概観をした後、避
難所外避難者がどのように支援されるべきなのかについて論じた。

③ 被災者の住まいと既存住宅ストック活用の課題検討

一住宅セーフティネットと居住支援法人に着目して一

山地久美子 大阪府立大学人間社会システム科学研究科客員研究員

東日本大震災以降、被災者に応急借上住宅が提供されるようになり、2021年5月に修正され
た中央防災会議『防災基本計画』では仮設住宅においては、建設型仮設住宅から既存住宅ス
トックの活用へ転換して応急的な住まいを確保することを基本とすることが明記された。ま
た、恒久住宅としては、住宅セーフティネット法（住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供
給の促進に関する法律）が2017年に改正施行され、災害被災者を「住宅確保要配慮者」に位
置付け、セーフティネット登録住宅に入居できるようになっている。日本の空き家の割合は
13.6%（平成30年住宅・土地統計調査）と上昇の一步をたどっており、石巻市で実施された
既存借上型市営住宅のように、今後被災者への住宅提供は既存住宅ストックとの連携や居住
支援も含めた幅広い検討が求められる。

参加者： 53 人（北後）

<第275回 神戸大学 RCUSSオープンゼミナール>

日 時：2022年2月19日（土）14時～17時

会 場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司 会：廣瀬 仁 神戸大学都市安全研究センター准教授

神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻准教授

主 催：神戸大学都市安全研究センター

共 催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス、神戸大学減災デザインセンター

会 場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

① スロースリップとは何か？～豊後水道下で発生するスロースリップを例として～

吉岡 祥一 神戸大学 都市安全研究センター教授

神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻教授

2021年10月～12月にかけてテレビ放映されたドラマ「日本沈没—希望のひと—」ではスロ
ースリップが日本沈没の前兆現象とされていました。スロースリップは実際に観測されてい
る現象ですが、ドラマでは、スロースリップがどのような現象かといった説明はなく、ま
た、ありえない設定も散見された。本講演では、専門的知見に基づき、スロースリップにつ

いて説明するとともに、豊後水道下のプレート境界で発生してきたスロースリップの解析例を紹介した。

② 島弧の地下構造が生み出す偏ったゆれ

寛 楽磨 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻助教

プレートの沈み込み帯に位置する日本列島は「島弧」と呼ばれる弓なりの形の島である。島弧に特有な地下構造によって、震源深さの深い地震によるゆれは、空間的に偏った変わった分布を示した。日本列島に高密度に展開された地震計の記録を使いながら、そのような現象の実例を紹介した。あわせて堆積盆地での地震のゆれの特徴についても示した。

参加者： 83 人（北後）

<第276回神戸大学 RCUSSオープンゼミナール（北後明彦教授退職記念講演会）>

日 時：2022年3月26日（土）14時～17時

会 場：オンライン開催（zoomウェビナー形式、ライブ動画視聴）

司 会：鈴木恵子 総務省消防庁消防研究センター主幹研究官

主 催：神戸大学都市安全研究センター

北後明彦教授退職記念事業実行委員会

共 催：神戸市危機管理室、神戸市消防局

神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス

神戸大学減災デザインセンター

① 21世紀における建築・都市防火、地域防災研究の展開

北後明彦 神戸大学都市安全研究センター教授

これらの分野における1970年代からの研究状況を社会の変化とともに振り返り、研究成果の普及・活用や今後の研究の展開、あるいは、地域、教育と研究の関係について示した。

② 建築・都市防火研究の動向と最新の成果

<市街地大火の発生条件と被害抑制について>

岩見 達也 国土技術政策総合研究所建築研究部防火基準研究室長

1995年阪神・淡路大震災では火災により多数の建物が被害を受けたが、風の強い条件が強なっていれば被害はさらに甚大なものになったと推測されている。また、強風下で発生した2016年新潟県糸魚川市の火災は30,000m²以上が焼損し、市街地大火が現代でも起こり得ることが示された。強風と火災の関係を改めて整理し被害抑制に向けて有効な対策を探った。

<自然災害に起因する大規模火災のリスク制御>

西野 智研 京都大学防災研究所社会防災研究部門准教授

地震火災と津波火災に焦点を絞り、現状の地震被害想定や地震防災対策から抜け落ちている重要な観点がないか考えた。また、リスク情報に基づいた合理的な防災対策の推進のため、様々な不確実性を考慮した地震火災・津波火災のリスク評価に関する最新の研究成果を紹介し、今後の巨大地震災害への備えを再考した。

③ 地域防災研究の動向と最新の成果

<巨大災害に向けた防災・復興研究の到達点>

越山健治 関西大学社会安全学部 安全マネジメント学科教授

1995年阪神・淡路大震災以後、巨大災害の防災対策・復興対策が日本社会で研究課題として注目されたが、十分に研究成果が実装されることができず、2011年に東日本大震災が発生した。これらを踏まえ、都市・地域計画論において巨大災害との向き合い方について、住宅と都市の関係、都市防災と地域再建の関係、災害リスクと地域計画の関係など、この25年、研究が果たした達成点と今後の課題についてまとめた。

<大規模災害時の避難行動・避難者支援>

荒木裕子 名古屋大学減災連携研究センター特任准教授

新型コロナウイルスの感染拡大を受け分散避難の考え方が示されている。しかし阪神・淡路大震災など過去の災害においても、危険な状態から逃れるため避難者は分散状態になり、その状況把握や必要な支援が届き難い状況は起きている。防災情報の高度化が進む中で避難行動とその後の生活継続をどう繋げるのか、現在の取組や動向を報告し、位置情報など技術的

な側面と地域活動を組み合わせた災害対応の枠組みについて考えた。

④ パネルディスカッション「今後の建築都市防火・地域防災研究の可能性と方向性」

コーディネーター：紅谷 昇平 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授

参加者： 208 人（北後）

9.2 共催

なし

9.3 中高生への説明会

広島大学附属高校スーパーサイエンスハイスクール サイエンスツアー研修

日時：令和3年年9月16日（金）

場所：オンライン講義・・・広島大学附属高校

全体講演

講師：大石 哲

「スーパーコンピュータ京や富岳によるシミュレーション」

個別講演

A班：岩田 健太郎

内容：「感染症に関するワークショップ」

B班：長尾 毅

内容：「地震の揺れについて考えてみよう」

C班：滝口哲也先生

内容：「機械で声質を変える一聴き取りやすい声で、豊かな生活をかなえる」

参加者：45名（大石）

9.4 その他

なし

1 1. 国際・国内交流活動

国際連携ワークショップ MIRAI BOSAI 2021

令和4年3月10日, 11日 オンライン開催

概要：「災害に対して強靱な社会と経済をつくる」を標語に、ポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）、ESG投資、SDGs、の潮流を踏まえ、経済を動かすことで持続可能で安全な社会を実現する可能性を探る防災減災の国際連続ワークショップ

主催者：神戸大学未来世紀都市学研究アライアンス

13. 研究費

13.1 科学研究費

研究題目：海溝沈み込みプレート表層デコルマ帯の固着域生成とすべりの地盤力学的解釈

研究種目：基盤研究(B)

研究者：飯塚敦

代表／分担：代表

受入金額：4,030千円

研究題目：太陽フレアにおける高エネルギー粒子加速のプラズマ粒子シミュレーション研究

研究種目：基盤研究(C)

研究者：銭谷誠司

代表／分担：代表

受け入れ金額：1,300千円

研究題目：スラブ内地震はなぜ起こるのか？オリビン準安定相・温度・脱水の3次元分布との関連性

研究種目：研究基盤(B)

研究者：吉岡祥一

代表／分担：代表

受入金額：3,900千円

研究題目：世界の沈み込み帯から:SlowとFastの破壊現象の実像

研究種目：学術変革領域研究(A)「Slow-to-Fast地震学」計画研究

研究者：吉岡祥一

代表／分担：分担

受入金額：3,160千円

研究題目：地殻変動観測に基づくスロー地震現象の相互作用の解明

研究種目：基盤研究(C)

研究者：廣瀬仁

代表／分担：代表

受け入れ金額：800千円

研究題目：時空間マルチスケールモデルからの予測：大規模計算とSlow-to-Fast地震学

研究種目：学術変革領域研究(A)

研究者：廣瀬仁

代表／分担：分担

受け入れ金額：1200千円

研究題目：自然災害を起因とした火災のリスク評価に関する研究

研究種目：基盤研究(C)

研究者：北後明彦

代表／分担：代表

受け入れ金額：1,000千円

研究題目：首都直下地震等大規模災害のセーフティネットとしての準公営住宅の国際比較研究

研究種目：挑戦的研究・萌芽

研究者：北後明彦
代表／分担：分担
受け入れ金額：300千円

研究題目：CFT部材の新しい接合法とCFT構造の中低層建築物への展開
研究種目：基盤研究(C)
研究者：藤永隆
代表／分担：代表
受け入れ金額：1,560千円

研究題目：ドリフト硬化型PCaRC造壁柱の開発と性能評価
研究種目：基盤研究(B)
研究者：藤永隆
代表／分担：分担
受け入れ金額：50千円

研究題目：構音障がい者のカスタマイズドコミュニケーション基盤技術の創出
研究種目：基盤研究 (B)
研究者：滝口哲也
代表／分担：代表
受入金額：3,300千円

研究題目：Deep Priorを用いた教師無し深層学習による脳内電流源推定
研究種目：学術変革領域研究(A)
研究者：滝口哲也
代表／分担：代表
受入金額：1,600千円

研究題目：大規模生体データを用いた AI による個人・集団レベルの創造性に関する実証研究
研究種目：基盤研究 (A)
研究者：滝口哲也
代表／分担：分担
受入金額：200千円

研究題目：構音障害者のための少量学習データでの音声認識モデル構築
研究種目：若手研究
研究者：高島遼一
代表／分担：代表
受入金額：1,820千円

研究題目：災害脆弱性を指標にした土砂災害起源の複合災害の条件付き災害発生確率に関する研究
研究種目：基盤研究(B)
研究者：大石哲
代表／分担：代表
受け入れ金額：9,035 千円

研究題目：島嶼域に着目した西部北太平洋モンスーンにおけるマルチスケール降水特性の解明
研究種目：基盤研究(B)
研究者：梶川 義幸
代表／分担：代表

受け入れ金額：13,500 千円

研究題目：階層構造を踏まえた気候システム評価手法開発への挑戦

研究種目：学術変革領域研究(B)

研究者：梶川 義幸

代表／分担：代表

受け入れ金額：19,500 千円

研究題目：DNA 気候学実現への挑戦的マネジメント

研究種目：学術変革領域研究(B)

研究者：梶川 義幸

代表／分担：分担

受け入れ金額：200 千円

研究題目：十分なリードタイムを持った確率に基づく洪水予測と最適避難方法論の構築

研究種目：基盤研究(C)

研究者：小林健一郎

代表／分担：代表

受け入れ金額：1,000 千円

研究題目：FPGA による混合精度浮動小数点演算を用いた数値気象モデルの実証研究

研究種目：基盤研究(C)

研究者：山浦剛

代表／分担：代表

受け入れ金額：4,160 千円

14. 教育活動

14.1 講義科目

工学部

- (飯塚) 連続体力学 (分担), 国際関係論 (分担), 地盤基礎工学 (分担), 高度教養セミナー (分担), 市民工学のための技術者倫理 (分担)
- (銭谷) 連続体力学 (分担), 市民工学のための技術者倫理 (分担)
- (北後) 建築・都市安全計画B, 設計演習 (分担), 計画演習 (分担)
- (長尾) 構造力学 I, 土木設計学, 構造動力学 (分担), 市民工学概論 (分担), 創造思考ゼミナール II (分担)
- (大石) 河川・流域工学, 河川・水文学 (分担), 市民工学概論 (分担), 初年次セミナー (分担), 教養としての市民工学 (分担), 創造思考ゼミナール II (分担)
- (梶川) 河川・水文学 (分担), 市民工学概論 (分担)
- (橘) 実験及び安全指導 (分担), 創造思考ゼミナール I (分担), 創造思考ゼミナール II (分担), 土質力学 II, 教養のための市民工学 (分担), 市民工学概論 (分担)
- (藤永) 防災構造工学 A・B, 建築工学実験 A (分担), 構造設計 IIA (分担), 高度教養セミナー工学部(建築学先端研究) (分担)
- (滝口) デジタル信号処理
- (高島) プログラミング演習4 (分担), メディア情報処理 (分担), 情報管理
- (小林) 河川・水文学 (分担), 実験及び安全指導 (分担), 水工学の基礎, 市民工学倫理 (分担), 創造思考ゼミナール I (分担), 創造思考ゼミナール II (分担)

理学部

- (吉岡) 固体地球物理学 I -1, 惑星学実習 A (分担), 初年次セミナー (分担), 高度教養セミナー理学部惑星学入門 (分担)
- (廣瀬) 初年次セミナー (分担), 惑星学基礎I-1, 固体地球物理学I-2, 固体地球科学1,2 (分担), 惑星学実習A (分担), 高度教養セミナー理学部惑星学入門 (分担)

医学部

- (岩田)
医学科: 卒後臨床研修医指導(感染症内科) 学部生BSL(4年次, 5年次), 感染症後期研修(感染症内科)、微生物学講義(3年次)、薬理学講義、臨床医学講義(4年次)
保健学研究科: 健康危機管理特講
- (大路)
医学科: 卒後臨床研修医指導(感染症内科), 学部生チュートリアル(全科), 学部生 BSL(5年次, 6年次), 臨床検査医学実習(分担)、微生物学講義(抗酸菌感染症総論)(3年生)
保健学研究科: 健康危機管理特講(分担)、国際保健学(分担)
医学・保健学・理学療法学、他大学共同講義: 「多職種協働」による実践(IPW: Inter-Professional Work)実習(分担)

全学共通授業科目

- (吉岡) 全学共通授業科目「惑星学 C」(分担)
- (大路) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」(分担)、医学A(分担)
- (廣瀬) 基礎教養科目「惑星学 C」(分担)
- (長尾) 総合教養科目「阪神・淡路大震災」(分担)
- (大石) 高度教養セミナー工学部(市民工学)
- (小林) 高度教養セミナー工学部(市民工学)(分担)

大学院工学研究科博士課程前期課程

- (飯塚) 固体計算力学 I(分担), 固体計算力学 II(分担), 固体計算力学 III(分担),
- (銭谷) 特別講義II
- (北後) 避難計画特論 A, 避難計画特論 B
- (長尾) 地震工学特論 I
- (大石) 流域システム
- (梶川) 気候システム論, 流域システム
- (橘) 地盤基礎工学特論
- (小林) 水文学と地理情報
- (藤永) 構造解析学1・2

大学院システム情報学研究科

- (滝口) ヒューマンコンピュータインタラクション論
- (高島) マルチメディア特論

大学院理学研究科博士課程前期課程

- (吉岡) 惑星学要論(分担), 特定研究 I II(分担)
- (廣瀬) 惑星学通論 4(分担)

大学院理学研究科博士課程後期課程

- (廣瀬) 惑星学特論 4(分担)

大学院国際協力研究科博士課程前期課程

- (北後) 国際防災論、国際防災論演習、Disaster Risk Management

大学院工学研究科博士課程後期課程

- (飯塚) 地下構造解析学(分担)
- (北後) 建築都市安全計画学
- (長尾) 地震防災工学
- (大石) 水資源計画
- (梶川) 水資源計画
- (橘) 土地安定対策論
- (藤永) 空間骨組構成論
- (小林) 河川流域計画論

大学院システム情報学研究科博士課程後期課程

(滝口) 知能情報特論 (分担)

(高島) 知能情報特論 (分担)

15. 研究業績

15.1 研究現状の紹介（研究テーマ）

リスク・アセスメント研究部門

地盤環境リスク評価研究分野

主な研究テーマ：持続可能な減災社会インフラ構築のための地盤安全環境評価手法の確立
液状化などの地盤の動的挙動を表現できる地盤材料構成モデルの高度化
広域地盤モデル作成のための地盤物性の把握と入力パラメータの決定法の開発
深海底サンプリングにおける応力変化が土供試体の力学特性に及ぼす影響の定量的評価手法の開発
プレート境界デコルマ帯における変質に伴う力学特性変化の定量化モデルの開発とアスペリティー形成の可能性の検討
デコルマ帯に見られるモンモリロナイト含有粘性土の力学特性の把握とその構成モデル化
放射性廃棄物地層処分におけるモンモリロナイト含有粘性土（ベントナイト材料）の力学特性および変質に伴う力学特性変化の数理モデルの開発

地震災害リスク評価研究分野

主な研究テーマ：東海・東南海・南海地震の固着域の推定
環太平洋地域のプレートの沈み込みに伴う温度・脱水分布とプレート間地震イベントとの関連性
動的断層破壊に関する数値シミュレーション
環太平洋地域の沈み込み帯におけるGNSSデータを用いたプレートの固着・すべりに関する研究
津波の数値シミュレーション
SSEと群発地震の連動メカニズムの解明

リスク・マネジメント研究部門

社会基盤マネジメント研究分野

主な研究テーマ：地震動の増幅特性の評価法に関する研究
建造物の設計地震動に関する研究
被害地震の地震動評価に関する研究
建造物の耐震性能照査法に関する研究
建造物の耐震信頼性評価に関する研究
杭・地盤相互作用評価に関する研究

減災エリアマネジメント研究分野

主な研究テーマ：都市・地域における安全計画に関する研究
災害時の都市復興計画に関する研究
建築における防火避難計画に関する研究
災害時要援護者の避難安全対策に関する研究
既存不適格建築物の耐震補強に関する研究
被災建造物の補修・補強に関する研究
鋼・コンクリート合成構造に関する研究

リスク・コミュニケーション研究部門

情報コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ： 機械学習に関する研究
画像処理・認識の研究
音声認識・音響情報処理の研究
マンマシーン・コミュニケーションに関する研究
障がい者インターフェースに関する研究

安全コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ： リスクコミュニケーションツールとしてのハザードマップの活用方法
次世代型偏波レーダーによる降水量推定・降水予測の高精度化と水管理へのインパクト評価
短時間降雨予測の不確実情報を用いた住民へのリスクコミュニケーションに関する研究
次世代型洪水流出・氾濫モデルの開発
スーパーコンピュータを用いた斜面崩壊の大規模シミュレーション
洪水時の避難行動モデルの開発

感染症リスク・コミュニケーション研究分野

主な研究テーマ： 都市安全の公衆衛生学的分析
災害対応の医療情報システム
医療技術のリスクと評価
リスク下での医学意思決定
TBLの研究
指導医講習会のあり方に関する研究
腸管スピロヘータ症の研究
ライム病の研究
東日本大震災と感染症に関する研究
パンデミックインフルエンザに関する研究
災害ボランティアにおける安全衛生
MRSA腸炎の存在証明に関する研究
アニサキス症予防のための魚介類冷凍の味覚に関する研究
結核喀痰塗抹採取時間に関する研究
感染症後期研修の質に関する研究

15.2 著 書

(飯塚)

未来に対する私たちの責任，美しい未来をつくるひとのための15のはなし
神戸大学出版会，pp.118-125，2021.3，ISBN978-4-909364-13-5

(北後)

Livelihood Reconstruction in the Devastated Areas Nine Years After the Great East Japan Earthquake and Tsunami

Akihiko Hokugo, Yuka Kaneko, Yuichi Honjo, Toshihisa Toyoda, Yumi Shiomi, Abel Táiti Konno Pinheiro et al.; In book: Build Back Better : Challenges of Asian Disaster Recovery, pp. 69-97, Kobe University Monograph Series in Social Science Research, Springer, ISBN: 9811659788

Community Recovery: Observation of Gathering Spaces in GEJE-2011 Affected Areas

Yegane Ghezelloo, Akihiko Hokugo; In book: Build Back Better : Challenges of Asian Disaster Recovery, pp.139-152, Kobe University Monograph Series in Social Science Research, Springer, ISBN: 9811659788

15.3 学術論文

(飯塚)

Automatic construction of three-dimensional ground model by data processing

Takeyama, T., O-tani, H., Oishi, S., Hori, M., Iizuka, A.; IEEE/ASME Transactions on Mechatronics, Vol.26, No.6, <https://doi.org/10.1109/TMECH.2021.3105062>, 2021.10

Leaning Pagoda of Ayutthaya Analysis with Three-Dimensional Effects and Ground Uncertainty

Ito, H., Ishida, Y., Sansaard, V., Takeyama, T. and Iizuka, A.: International Journal of GEOMATE, June, 2021, Vol.20, Issue 82, pp.161-169, DOI: <https://doi.org/10.21660/2021.82.j2108>, 2021

(飯塚・橘)

A procedure to determine material parameters based on borehole data in dynamic analysis

Takeyama, T., Honda, K., Tachibana, S., Iizuka, A.; International Journal of GEOMATE, Vol.21, Issue 85, pp.1-9, 2021

Liquefaction risk assessment in the 23 wards of Tokyo using elastoplastic analysis

Honda, K. Takeyama, T. Tachibana, S., Iizuka, A., International Journal of GEOMATE, Vol.21, No.86, pp.48-54 ISSN: 2186-2982 (P), 2186-2990 (O), DOI: <https://doi.org/10.21660/2021.86.j2270>, 2021.10

温度勾配による不飽和ベントナイト中の水分移動シミュレーション

有井拓也, 太田有祐, 橘伸也, 竹山智英, 飯塚敦
Proceedings of Kansai Geo-Symposium 9 218-222 2021 年 11 月

Numerical study on the axial and radial swelling behaviors of unsaturated compacted bentonite

S. Tachibana, D. Hayashi, T. Ishii, T. Takeyama and A. Iizuka Proc. of 11th Conference on Geotechnique, Construction Materials & Environment, Kyoto, C3051 (2021)

(橘)

プレート境界断層デコルマ帯におけるスロースリップ発生メカニズムに関する研究

杉山 友理, 橘 伸也, 森川 嘉之
港湾空港技術研究所報告 60(1) 3-29 2021 年 6 月

(銭谷)

Relativistic Maxwellian mixture model

G. Ueno and S. Zenitani, Physics of Plasmas, 28, 122106, 2021

(吉岡)

3-D thermal regime and dehydration processes around the regions of slow earthquakes along the Ryukyu Trench

Nobuaki Suenaga, Shoichi Yoshioka and Yingfeng Ji, Scientific Reports, 11, 11251, 2021
<https://doi.org/10.1038/s41598-021-90199-2>

海惑星の将来を考える — マントル掘削の意義 —

巽 好幸・末永 伸明・吉岡 祥一・金子 克哉, 地学雑誌, 130, 585-597, 2021
<https://doi.org/10.5026/jgeography.130.585>

Thermal regime and slab dehydration beneath the Izu-Bonin arc: Implications for fast and slow subduction earthquakes

Weiling Zhu, Yingfeng Ji, Rui Qu, Chaodi Xie, Shoichi Yoshioka and Deng Zeng, Terra Nova, 0, 1-102, 2021
<https://doi.org/10.1111/ter.12568>

Spatiotemporal slip distributions associated with the 2018–2019 Bungo Channel long-term slow slip event inverted from GNSS data

Yukinari Seshimo and Shoichi Yoshioka, Scientific Reports , 12, 343, 2022
<https://doi.org/10.1038/s41598-021-03982-6>

Exploring the location of large earthquakes using fault stress accumulation—A case study upon MW9.0 Tohoku-Oki earthquake in Japan

Xie ZhouMin, CaiYongEn, Shoichi Yoshioka, Daiki Abe, Chinese Journal of Geophysics (in Chinese), 65, 1-11, 2022
<https://doi.org/10.6038/cjg2022P0727>

(廣瀬)

Development of a detection method for short-term slow slip events using GNSS data and its application to the Nankai subduction zone

Okada, Y., Nishimura, T., Tabei, T., Matsushima, T., Hirose, H., Earth Planets Space, 74, 18,
<https://doi.org/10.1186/s40623-022-01576-8>, 2022.

(長尾)

Site-Specific Earthquake Ground Motions for Seismic Design of Port Facilities in Indonesia

C. Boyke, A. N. Refani, T. Nagao, Applied Sciences, 2022, 12, 1963

Variation Evaluation of Path Characteristic and Site Amplification Factor of Earthquake Ground Motion at Four Sites in Central Japan

T. Nagao, Engineering, Technology & Applied Science Research Vol. 11, No. 5, 2021, 7658-7664

Evaluation Methods of Vertical Subgrade Reaction Modulus and Rotational Resistance Moment for Seismic Design of Embedded Foundations

T. Nagao, R. Tsutaba, Engineering, Technology & Applied Science Research Vol. 11, No. 4, 2021, 7386-7392

Maximum Credible Earthquake Ground Motions with Focus on Site Amplification due to Deep Subsurface

T. Nagao, Engineering, Technology & Applied Science Research Vol. 11, No. 2, 2021, 6873-6881

(北後)

豪雨時における高齢者施設の避難事例に基づく垂直避難プロセスの解明

廖解放, 北後明彦, 大西一嘉, 大津暢人, ピニエイロ アベウ タイチ コンノ, 木作尚子, 大村太秀, 日本建築学会計画系論文集, 86 巻 786 号, 2032-2042, 2021.8

福祉と連携した要配慮者津波避難訓練を通じた避難支援課題の抽出

劉永恩, 大津暢人, 北後明彦, 張ユイン, 日本建築学会計画系論文集, 86 巻 786 号, 2201-2211, 2021.8

Evacuation of vulnerable people during a Natech: a case study of a flood and factory explosion in Japan

Ohtsu Nobuhito, Hokugo Akihiko, Cruz Ana Maria, Sato Yukari, Araki Yuko, Park Hyejeong, International Journal of Disaster Resilience in the Built Environment, October 2021

Evacuation Preparation Scenarios of Households during Early and Emergency Evacuation: A Case Study of Cyclone Bulbul in Southwestern Coastal Bangladesh

Md Atikur Rahman, Akihiko HOKUGO, Nobuhito OHTSU, Swarnali Chakma, IDRiM Journal, Vol. 11, Issue 2, October 2021

Household evacuation preparation time during a cyclone: Random Forest algorithm and variable degree analysis

Md Atikur Rahmana, Akihiko Hokugo, Nobuhito Ohtsu, Progress in Disaster Science, Volume 12, December 2021

Technological accidents caused by floods: The case of the Saga prefecture oil spill, Japan 2019

Alessio Misuri, Ana Maria Cruz, Hyejeong Park, Emmanuel Garnier, Nobuhito Ohtsu, Akihiko Hokugo, Isamu Fujita, Shin-ichi Aoki, Valerio Cozzani, International Journal of Disaster Risk Reduction, Volume 66, December 2021

Authorization and levels of justice in recovery of gathering spaces after the great East Japan earthquake and tsunami 2011

Yegane Ghezelloo, Akihiko Hokugo, Elizabeth Maly, Yumi Shiomi, Volume 13, January 2022

豪雨時における高齢者施設間の自動車を用いた要配慮者避難の事例分析

廖解放, 北後明彦, 大津暢人, 大西一嘉, 大村太秀, 日本建築学会計画系論文集, 87 巻 792 号, 250-259, 2022.2

Effectiveness of gathering activities and spaces for community recovery in GEJET-2011-affected areas

Yegane Ghezelloo, Akihiko Hokugo, Journal of Asian Architecture and Building Engineering, March 2022

(藤永)

コンクリート充填鋼管適用技術の現状と最先端 H217 複合構造委員会・コンクリート充填鋼部材の活用に関する研究小委員会 (分担執筆) ,
土木学会論文集 A1 (構造・地震工学) , Vol.77, No.5, pp.II_50- II_64, 2021.6

Evaluation Method for Allowable Short-term Flexural Strength and Yield Strength of Concrete-filled Steel Tubular Columns

Takashi Fujinaga and Tomoya Kawabata, Proceedings of International Structural Engineering and Constructions, Jul. 2021

Effect of Strength of Filled-concrete on Structural Performance of Continuous Beam-type Square CFST Beam-to-column Connection

Koki Doi and Takashi Fujinaga:, Proceedings of International Structural Engineering and Constructions, Jul. 2021

Reinforcing I-beams with Web Openings Using Fillet-welded Perforated Plate

Tomoya Kawabata and Takashi Fujinaga:, Proceedings of International Structural Engineering and Constructions, Jul. 2021

Influence of Bond and Friction on Tensile Strength of Perforated Steel Plate Connector under Confinement

Yuka Nagaoka, Takashi Fujinaga and Teruhisa Tanaka:, Proceedings of International Structural Engineering and Constructions, Jul. 2021

鋼管拘束下の孔あき鋼板ジベルの引抜き耐力に関する実験的研究

長岡優花, 藤永隆, 田中照久 : , 第 14 回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム講演集, pp.2-1-2-7, 2021 年 11 月

梁貫通形式角形 CFT 柱梁接合部の構造性能に及ぼす軸力と幅厚比の影響に関する研究
土居晃基, 藤永隆 :, 第 14 回複合・合成構造の活用に関するシンポジウム講演集, pp.50-1-50-7, 2021 年 11 月

(滝口・高島)

Phoneme-guided dysarthric speech conversion with non-parallel data by joint training
Xunquan Chen, Atsuki Oshiro, Jinhui Chen, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Signal, Image and Video Processing, 2022.

Comparison of real-time multi-speaker neural vocoders on CPUs
Keisuke Matsubara, Takuma Okamoto, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Tomoki Toda, Hisashi Kawai, Acoustical Science and Technology, vol. 43, no. 2, pp. 121-124, 2022.

Unsupervised domain adaptation for lip reading based on cross-modal knowledge distillation
Yuki Takashima, Ryoichi Takashima, Ryota Tsunoda, Ryo Aihara, Tetsuya Takiguchi, Yasuo Ariki, Nobuaki Motoyama, EURASIP Journal on Audio, Speech, and Music Processing, 2021.

Full-band LPCNet: a real-time neural vocoder for 48 kHz audio with a CPU
Keisuke Matsubara, Takuma Okamoto, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Tomoki Toda, Yoshinori Shiga, Hisashi Kawai, IEEE Access, vol. 9, pp. 94923-94933, 2021.

Speaker-targeted audio-visual speech recognition using a hybrid CTC/attention model with interference loss
Ryota Tsunoda, Ryo Aihara, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Yoshie Imai, ICASSP, pp. 251-255, 2022-05.

MEG source localization using deep prior
Rio Yamana, Hajime Yano, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Seiji Nakagawa, IEEE LifeTech, pp. 590-591, 2022-03.

Comparative evaluation of neural vocoders for speech synthesis of operatic singing
Sota Shimizu, Keisuke Matsubara, Yuji Adachi, Kiyoto Tai, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, IEEE LifeTech, pp. 28-29, 2022-03.

Data augmentation for dysarthric speech recognition based on text-to-speech synthesis
Yuki Matsuzaka, Ryoichi Takashima, Chiho Sasaki, Tetsuya Takiguchi, IEEE LifeTech, pp. 399-400, 2022-03.

Adaptation of a pronunciation dictionary for dysarthric speech recognition
Yuya Sawa, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, IEEE LifeTech, pp. 612-616, 2022-03.

Data augmentation based on frequency warping for recognition of cleft palate speech
Kento Fujiwara, Ryoichi Takashima, Chihiro Sugiyama, Nobukazu Tanaka, Kanji Nohara, Kazunori Nozaki, Tetsuya Takiguchi, APSIPA ASC, pp. 471-476, 2021-12.

High-intelligibility speech synthesis for dysarthric speakers with LPCNet-based TTS and CycleVAE-based VC
Keisuke Matsubara, Takuma Okamoto, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi, Tomoki Toda, Yoshinori Shiga, Hisashi Kawai, ICASSP, pp. 7058-7062, 2021-06.

(大石)

Predictive simulation of concurrent debris flows: How slopefailure locations affect predicted damage
Kazuki Yamanoi, Satoru Oishi, Kenji Kawaike, Hajime Nakagawa, Journal of Flood Risk Management, doi.org/10.1111/jfr3.1277618, 2021.

A Probabilistic Liquefaction Hazard Assessment for Urban Regions Based on Dynamics Analysis Considering Soil Uncertainties

Jian Chen, Hideyuki O-tani, Tomohide Takeyama, Satoru Oishi, Muneo Hori, Journal of Earth Science, Vol. 32, No. 5, p. 1129–1138, 2021

Automatic construction of three-dimensional ground model by data processing

Tomohide Takeyama, Hideyuki O-tani, Satoru Oishi, Muneo Hori, and Atsushi Iizuka, IEEE/ASME Transactions on Mechatronics (TMECH), 2021.

(小林)

Inundation analysis using coupling storage function model with a distributed hydrological model in Kushiro marsh

Shino Sakaguchi, Keisuke Nakayama, Kenichiro Kobayashi and Katsuaki Komai : , Japan, Hydrological Research Letters 14(2), 75-80, 2020, DOI: 10.3178/hrl.14.75, 2020

令和元年東日本台風による荒川中流部洪水再現,

小林健一郎, 田中規夫, 丸山恭介, 田中翔, 渡部哲史, 北野利一 : 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.77, No.2, I_1393-I_1398, 2021

佐用川流域を対象とした複数の流出モデルを用いた気候変動による流量変化予測,

小林健一郎, 川邊結子, 渡部哲史, 北野利一, 丸山恭介 : 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.77, No.2, I_181-I_186, 2021

単純極値変数と超過数の視点から見た降水量の極値の数理特性,

北野利一, 渡部哲史, 小林健一郎, 土木学会論文集 B1(水工学) Vol.77, No.2, I_1153-I_1158, 2021

Estimation of paddy field dam effect on flood mitigation focusing on Suse Region of Hyogo,

Kobayashi. K., Kono, Y., Kimura, T. and Tanakamaru, H., Japan, Hydrological Research Letter, Vol. 15, No.3, pp 64-70, 2021

Analysis of Evacuation Time for Vulnerable Individuals during Inundation of Lowland Areas,

Bae Chang Yeon and Kenichiro Kobayashi: Journal of Disaster Research, Vol.16, No.5, pp. 866-873, 2021 (査読あり)

(岩田)

Increase of blood culture contamination during COVID-19 pandemic. A retrospective descriptive study.

Risa Ohki, Yumiko Fukui, Naomi Morishita, Kentaro Iwata
American journal of infection control 49(11) 1359-1361 2021

Persistent bilateral breast pain treated with traditional Kampo medicine.

Kentaro Iwata, Takashi Nishimoto
Journal of general and family medicine 22(6) 347-349 2021

(岩田・大路)

Massive surge of mRNA expression of clonal B-cell receptor in patients with COVID-19

Funakoshi Yohei, Ohji Goh, Yakushijin Kimikazu, Ebisawa Kei, Arakawa Yu, Saegusa Jun, Matsumoto Hisayuki, Imanishi Takamitsu, Fukuda Eriko, Matsutani Takaji, Mori Yasuko, Iwata Kentaro, Minami Hironobu
Heliyon 7(8) e07748 2021

Impact of Infectious Disease Consultation on Management and Outcomes of Infective Endocarditis.

Okura T, Iwata K, Koyama T, Ebisawa K, Arakawa Y, Kusuki M, Ohji G. Ann Thorac Surg. 2021 Oct;112(4):1228-1234. doi: 10.1016/j.athoracsur.2020.09.044. Epub 2020 Nov 26.

Serum Cytokine Profiles of Rapid Recovery Patients with COVID-19: Series of 6 Cases.

Ohji G, Funakoshi Y, Ebisawa K, Yakushijin K, Arakawa Y, Saegusa J, Kawamoto S, Imanishi T, Mori Y, Iwata K, Minami H. Kobe J Med Sci. 25;67(2):E55-E60. 2021

(大路)

Limited increase in antibody titers following mRNA SARS-CoV-2 vaccination for more than 3 years after final dose of anti-CD20 antibody.

Funakoshi Y, Yakushijin K, Ohji G, Hojo W, Sakai H, Watanabe M, Saeki M, Hirakawa Y, Sakai R, Matsumoto S, Mizutani Y, Kitao A, Miyata Y, Saito Y, Kawamoto S, Yamamoto K, Ito M, Nishimura M, Imamura Y, Kiyota N, Matsuoka H, Mori Y, Minami H. Int J Hematol. Jan;115(1):7-10, 2022.

The Safety and Immunogenicity of the BNT162b2 mRNA COVID-19 Vaccine in Japanese Patients after Allogeneic Stem Cell Transplantation.

Watanabe M, Yakushijin K, Funakoshi Y, Ohji G, Hojo W, Sakai H, Saeki M, Hirakawa Y, Matsumoto S, Sakai R, Nagao S, Kitao A, Miyata Y, Koyama T, Saito Y, Kawamoto S, Ito M, Murayama T, Matsuoka H, Minami H. Vaccines (Basel). 21;10(2):158. 2022

15.4 学術報告

(飯塚)

自然災害への対時的な防災・減災からの脱却, 飯塚敦, 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp.181-190, 2021.3

(飯塚・橘)

粘土緩衝材を対象とした熱/水/空気/応力連成解析手法の開発, 太田有祐, 伊藤真司, 橘伸也, 竹山智英, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp. 22-32, 2021

機械学習による過圧密比の深度分布推定, 陳冉, 竹山智英, 銭谷誠司, 橘伸也, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp. 33-41, 2021

土/水/空気連成動的解析を用いたアーチ効果の液状化への影響の解析的検討, 林啓太, 竹山智英, 橘伸也, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp. 42-50, 2021

粘土鉱物の変質に起因する間隙水圧の上昇とスロースリップ, 酒井貴寛, 土井優斗, 橘伸也, 竹山智英, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp. 51-61, 2021

盛立ておよび降雨過程における盛土の圧縮挙動の有限要素解析, 難波友徳, 伊藤真司, 橘伸也, 竹山智英, 飯塚敦, 都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp. 62-74, 2021

(吉岡)

2018~2019 年豊後水道長期的 SSE のすべりの時空間分布の推定, 吉岡 祥一・瀬下 幸成, 東濃地震科学研究所報告, Seq. no.47, 85-102, 2022

(廣瀬)

紀伊半島北部における短期的スロースリップイベントのすべり領域の傾斜データによる制約-すべり領域と微動発生領域の空間的比較-, 副島庸平・廣瀬仁, 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 25, 9-21, 2021.

(北後)

東日本大震災復興十年の被災地における住民の生活復興意識調査の結果と考察 (総合), 北後明彦, 金子由芳, 本荘雄一, 豊田利久, 塩見有美, ピンエイロ アベウ タイチ コンノ, イエガネ ゲゼール, 国際協力論集, 29 巻 1 号, p.23-63, 2021.7

豪雨時の高齢者施設の搬送避難に関する事例研究—地域連携による支援に着目して—, 廖解放, 王馥琚, 北後明彦, 大津暢人, 大西一嘉, 大村太秀, 都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp.80-92, 2022.3

Post Cyclone-Disaster Resilient Habitat: A Case Study of Bangladesh, Swarnali Chakma, Akihiko Hokuo, 都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, pp.93-100, 2022.3

(藤永)

梁貫通形式角形 CFT 柱梁接合部の構造性能に及ぼす軸力と幅厚比の影響に関する研究, 土居晃基, 藤永隆, 林開利, 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 第 25 号, 2021

単調載荷時の CFT 柱の降伏耐力評価と曲げモーメント—曲率関係モデル, 藤永隆, 2021 年度日本建築学会大会 (東海) 構造部門 (SCCS) パネルディスカッション資料, pp.29-37, 2021.9

15.5 学術講演

(銭谷)

Multiple Boris solvers for particle-in-cell (PIC) simulation, S. Zenitani and T. N. Kato, EGU General Assembly 2021, Online, April 2021

Plasmoid-dominated Turbulent Reconnection in a Low- β Plasma, S. Zenitani and T. Miyoshi, SolFER Spring 2021 Meeting, Online, May 2021

非相対論的プラズマ粒子シミュレーションのための全多重 Buneman-Boris 数値解法, 銭谷誠司, 加藤恒彦, 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, オンライン, 2021 年 6 月

非対称条件におけるプラズモイド型磁気リコネクションの MHD シミュレーション, 山本百華, 銭谷誠司, 日本地球惑星科学連合 2021 年大会, オンライン, 2021 年 6 月

Particle dynamics and nongyrotropic velocity distribution functions in magnetic reconnection, S. Zenitani, International Workshop on Magnetic Reconnection 2021 (2021 年磁場重联国际研讨会), Weihai+Online, July 2021

Plasmoid-dominated Turbulent Reconnection in a Low- β Plasma, S. Zenitani and T. Miyoshi, AOGS 18th Annual Meeting, Online, August 2021

プラズモイド型乱流リコネクションの磁気流体シミュレーション, 銭谷誠司, 三好隆博, STE シミュレーション研究会, オンライン, 2021 年 9 月

Plasmoid-dominated Turbulent Reconnection in a Low- β Plasma: MHD simulations and code developments, S. Zenitani and T. Miyoshi, 5th Asia-Pacific Conference on Plasma Physics (AAPPS-DPP2021), Online, September 2021

プラズモイド型乱流磁気リコネクションの MHD シミュレーション研究, 銭谷誠司, 三好隆博, プラズマシミュレーターシンポジウム 2021, 核融合科学研究所/オンライン, 2021 年 9 月

プラズマ粒子シミュレーションのための全多重 Boris 解法の提案, 銭谷誠司, 加藤恒彦, 第 38

回プラズマ・核融合学会年会, オンライン, 2021 年 11 月

超並列磁気流体シミュレーションコード OpenMHD の開発, 銭谷誠司, 三好隆博, 近藤光志, Wai-Leong Teh, 地球電磁気・地球惑星圏学会 2021 年秋学会, オンライン, 2021 年 11 月

宇宙・太陽・天体プラズマにおける粒子加速研究の将来構想, 銭谷誠司, 今田晋亮, 篠原育, 粒子加速研究分科会, 地球電磁気・地球惑星圏学会 第 150 回総会及び講演会, オンライン, 2021/11

密度非対称条件におけるプラズモイド型磁気リコネクションの MHD シミュレーション, 山本百華, 銭谷誠司, 地球電磁気・地球惑星圏学会 2021 年秋学会, オンライン, 2021 年 11 月

密度非対称条件におけるプラズモイド型磁気リコネクションの MHD シミュレーション, 山本百華, 銭谷誠司, 日本天文学会 2022 年春季年会, オンライン, 2022 年 3 月

ガイド磁場条件での磁気リコネクションの衝撃波構造分析, 渡邊悠太郎, 銭谷誠司, 日本天文学会 2022 年春季年会, オンライン, 2022 年 3 月

乱流磁気リコネクションのシミュレーション研究と GPU 時代の展望, 銭谷誠司, ISEE 研究集会「太陽地球圏環境予測のためのモデル研究の展望」、オンライン, 2022/3

(飯塚, 橘)

動的解析を用いたアーチ効果の液状化への影響評価, 林啓太, 竹山智英, 橘伸也, 飯塚敦, 第 56 回地盤工学研究発表会 (山形), 2021 年 7 月.

地盤グリッドモデルを用いた数値解析モデルの自動生成, 田村彩奈, 本田和也, 竹山智英, 橘伸也, 飯塚敦, 第 56 回地盤工学研究発表会 (山形), 2021 年 7 月.

過圧密比の深度分布と地表面加速度の相関性, 林勇佑, 本田和也, 竹山智英, 橘伸也, 飯塚敦, 2021 年度土木学会関西支部年次学術講演会, 2021.

(吉岡)

沈み込むスラブの年代の違いによる西南日本の火山分布の特徴 ~熱構造の観点から~, 松本 拓己, 巽 好幸, 末永 伸明, 吉岡 祥一, 金子 克哉, 日本地球惑星科学連合 2021 年大会 (オンライン; 招待講演), SCG49-11, 2021 年 6 月, 2021.

中部日本下に沈み込んだフィリピン海プレートの行方, 宮崎 一希, 中島 淳一, 末永 伸明, 吉岡 祥一, 日本地球惑星科学連合 2021 年大会 (オンライン), SCG49-10, 2021 年 6 月, 2021.

アラスカ沈み込み帯における 3 次元温度構造モデリング, 岩本 佳耶, 末永 伸明, 吉岡 祥一, 日本地球惑星科学連合 2021 年大会 (オンライン), STT38-04, 2021 年 6 月, 2021.

Spatiotemporal slip distributions of the 2018-2019 Bungo Channel long-term slow slip event, Yukinari Seshimo and Shoichi Yoshioka, Japan Geoscience Union Meeting 2021 (オンライン), SCG39-14, 2021 年 6 月, 2021.

A Bayesian multi-model inference for fault slip distribution: the effect of prior constraints in the estimation for long-term slow slip events beneath the Bungo Channel, Ryoichiro Agata, Ryoko Nakata, Amato Kasahara, Yuji Yagi, Yukinari Seshimo, Shoichi Yoshioka and Takeshi Iinuma, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2021 (オンライン), P-40, 2021 年 9 月, 2021.

豊後水道長期的スロースリップにおけるすべり分布のベイズマルチモデル推定: 先験的拘束条件の推定結果に対する影響, 縣 亮一郎・中田 令子・笠原 天人・八木 勇治・瀬下 幸成・吉岡 祥一・飯沼 卓史, 本地震学会 2021 年度秋季大会 (オンライン), S23-01, 2021 年 10 月, 2021.

北陸地方下のフィリピン海プレート形状を探る, 宮崎 一希・中島 淳一・末永 伸明・吉岡 祥一, 日本地震学会 2021 年度秋季大会 (オンライン), S04-01, 2021 年 10 月, 2021.

アラスカ沈み込み帯における深部低周波微動と 3 次元温度構造・脱水分布との関連性, 岩本佳耶・末永 伸明・吉岡 祥一, 日本地震学会 2021 年度秋季大会 (オンライン), S04P-01, 2021 年 10 月, 2021.

今年度及び 5 カ年の活動計画, 吉岡 祥一, 学術変革領域研究 A03 班キックオフミーティング (オンライン), 2021 年 11 月, 2021.

本プロジェクトにおける研究計画, 吉岡 祥一, SF 地震学 B03 班キックオフミーティング (オンライン), 2021 年 12 月, 2021.

6-year achievement of the Japanese B1 group, Shoichi Yoshioka, Nobuaki Suenaga, Yingfeng Ji, Tomotaka Iwata, Hiroshi Kawase, Fumiaki Nagashima, Shinichi Matsushima, Ryosuke Ando and Bunichiro Shibasaki, JST-JICA-UNAM Final Workshop (オンライン), 2022 年 3 月, 2022.

地下構造の不確かさを考慮したベイズマルチモデル断層すべり推定, 縣 亮一郎・中田 令子・笠原 天人・八木 勇治・瀬下 幸成・吉岡 祥一・飯沼 卓史, 都市地震リスク軽減に向けたデータ駆動型研究の最前線 (オンライン・京都 (招待講演)), 2022 年 3 月, 2022.

豊後水道下で発生する長期的スロースリップイベントについて, 吉岡 祥一・瀬下 幸成・松岡美子・井出 哲, 地殻変動研究のこれまでとこれから (京都), 2022 年 3 月, 2022.

(廣瀬)

Slow slip events in the Bungo Channel and Hyuganada areas from 2018 to 2019 detected by a GNSS observation network, Hitoshi Hirose, Takeshi Matsushima, Takao Tabei, Takuya Nishimura, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2021, P-19, 2021 年 9 月 14-16 日

The moment release rate of short-term slow slip events in the northern Kii Peninsula based on NIED Hi-net tilt data (2002-2020), Naoya Chujo, Hitoshi Hirose, Takeshi Kimura, International Joint Workshop on Slow Earthquakes 2021, O-09, 2021 年 9 月 14-16 日

Slow slip events in the Bungo Channel and Hyuganada areas from May 2018 to June 2019 detected by a GNSS observation network, Hitoshi Hirose, Takeshi Matsushima, Takao Tabei, Takuya Nishimura, JpGU Meeting 2021, SCG39-P15, 2021 年 5 月 30 日-6 月 6 日

The moment release rate of short-term slow slip events in the northern Kii Peninsula from 2002 to 2015 based on NIED Hi-net tilt data, Naoya Chujo, Hitoshi Hirose, Takeshi Kimura, JpGU Meeting 2021, SCG39-17, 2021 年 5 月 30 日-6 月 6 日

Development of the detection method for short-term slow slip events using GNSS data and its application to the Nankai subduction zone, Yutaro Okada, Takuya Nishimura, Takao Tabei, Takeshi Matsushima, Hitoshi Hirose, 2021, JpGU 2021, SCG39-13, 2021 年 5 月 30 日-6 月 6 日

A comparison of the source areas in Hyuganada among afterslip of two interplate earthquakes in 1996 and successive slow slip events, Sawako Teshiba, Hitoshi Hirose, JpGU 2021, SCG39-P28, 2021 年 5 月 30 日-6 月 6 日

鬼界海底カルデラ付近で得られた海底圧力観測の初期的な結果, 浅井ゆう子・島伸和・羽入朋子・松野哲男・廣瀬仁・南拓人・杉岡裕子, JpGU 2021, SCG45-13, 2021 年 5 月 30 日-6 月 6 日

(長尾)

底部拡幅ケーソン基礎式栈橋の基礎幅と地盤反力度に関する実験的検討, 長尾 毅, 津田葉涼太, 小宅知行, 倉知禎直, 土木学会年次学術講演会, 2021

根入れ式基礎の基礎拡幅に伴う鉛直地盤反力係数の評価手法, 津田葉涼太, 長尾 毅, 日本地震工学会・大会, 2021

(北後)

Tendency of career firefighters' fatalities while on dispatch fire duty in Japan compared to the U.S., Nobuhito Ohtsu, Cristian Maluk Kiminori Araiba, Akihiko Hokugo, 12th Asia-Oceania Symposium on Fire Science and Technology, AOSFST 2021, December 2021

(藤永)

梁貫通形式角形 CFT 柱梁接合部に関する実験的研究 (その 4) 軸力比と幅厚比の影響, 土居晃基, 藤永隆, 日本建築学会 2021 年度大会, 2021 年 9 月

振動台と油圧アクチュエータの同期による RC 構造建物のリアルタイム・ハイブリッド実験 (その 3 リアルタイム・ハイブリッド実験の概要と遅れ時間補償), 太田雅也, 藤井俊之助, 向井洋一, 藤永隆, 藤谷秀雄, 日本建築学会 2021 年度大会, 2021 年 9 月

振動台と油圧アクチュエータの同期による RC 構造建物のリアルタイム・ハイブリッド実験 (その 4 想定する 2 質点構造モデルの構成と AMD による応答制御の検証), 藤井俊之助, 太田雅也, 向井洋一, 藤永隆, 藤谷秀雄, 日本建築学会 2021 年度大会, 2021 年 9 月

(滝口・高島)

Period-HiFi-GAN: 基本周波数を制御可能な高速ニューラルボコーダ, 松原圭亮, 岡本拓磨, 高島遼一, 滝口哲也, 戸田智基, 河井 恒, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 1-3-8, pp. 901-904, 2022-03.

複数話者 TTS を利用した脊髄性筋萎縮症者音声明瞭化の検討, 吉本 拓真, 松原 圭亮, 高島遼一, 佐々木 千穂, 滝口 哲也, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 1-3P-15, pp. 1045-1048, 2022-03.

構音障害者音声認識における自己教師あり学習と疑似ラベリングの動的重み付きマルチタスク学習, 澤 佑哉, 相原 龍, 高島 遼一, 滝口 哲也, 今井 良枝, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 1-3Q-3, pp. 1053-1056, 2022-03.

妨害発話環境下におけるマルチモーダル音声認識モデルの事前学習方式の検討, 角田 遼太, 相原 龍, 高島 遼一, 滝口 哲也, 今井 良枝, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 1-3Q-4, pp. 1057-1060, 2022-03.

Emotional Voice Conversion Using Disentangled Representation Learning and Attention Mechanism, 陳 訓泉, 陳 金輝, 高島 遼一, 滝口 哲也, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 1-3Q-9, pp. 1075-1078, 2022-03.

異なる疾患の障害者音声を用いた器質性構音障害者音声認識モデルの学習, 富士原 健斗, 高島 遼一, 杉山 千尋, 田中 信和, 野原 幹司, 野崎 一徳, 滝口 哲也, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 2-3P-1, pp. 1091-1094, 2022-03.

構音障害者音声認識におけるテキスト音声合成によるデータ拡張の検討, 松坂 勇樹, 高島 遼一, 佐々木 千穂, 滝口 哲也, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 2-3Q-1, pp. 1137-1140, 2022-03.

オペラ歌唱音声合成におけるニューラルボコーダの比較検討, 清水 聡太, 松原 圭亮, 足立 優司, 田井 清登, 高島 遼一, 滝口 哲也, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 2-3Q-7, pp. 1157-1160, 2022-03.

深さ重みを考慮した Deep Prior による電流源推定, 山名 莉央, 矢野 肇, 高島 遼一, 滝口 哲也, 中川 誠司, 日本音響学会 2022 年春季研究発表会講演論文集, 2-4P-7, pp. 711-714, 2022-03.

物理シミュレーションと深層学習による金属・樹脂界面の密着度強化のための構造最適化, 黄伊莎, Tristan Hascoet, 高島 遼一, 滝口 哲也, 情報処理学会第 84 回全国大会講演論文集, 5Q-04, pp. 2-239 - 2-240, 2022-03.

属性情報を用いた音響イベントのゼロショット学習, Lin Yihan, 高島 遼一, 滝口 哲也, 情報処理学会第 84 回全国大会講演論文集, 5R-07, pp. 2-341 - 2-342, 2022-03.

グローバル水文モデルのための堤防自動検知 -米国を対象とした事例研究-, 池側正人, Tristan Hascoet, Victor Pellet, 渡辺 恵, Xudong Zhou, 田中良明, 滝口哲也, 山崎 大, 情報処理学会第 84 回全国大会講演論文集, 2ZK-08, pp. - , 2022-03.

知識グラフに基づく応答文生成におけるエンティティ名制約付きデコーディング, 佐良和孝, 滝口哲也, 有木康雄, 言語処理学会第 28 回年次大会発表論文集, B1-2, pp. 28-32, 2022-03.

テキスト穴埋めによる知識ベース対話システムの構築, 薛強, 滝口哲也, 有木康雄, 言語処理学会第 28 回年次大会発表論文集, PT2-16, pp. 1041-1044, 2022-03.

擬似ラベリングと特徴表現学習を併用した構音障害者音声認識, 澤 佑哉, 富士原 健斗, 相原 龍, 高島 遼一, 滝口 哲也, 今井 良枝, 日本音響学会 2021 年秋季研究発表会講演論文集, 1-3-2, pp. 847-850, 2021-09.

HiFi-GAN ボコーダにおける LPCNet 特徴量の検討, 松原圭亮, 岡本拓磨, 高島遼一, 滝口哲也, 戸田智基, 河井 恒, 日本音響学会 2021 年秋季研究発表会講演論文集, 1-3-10, pp. 875-878, 2021-09.

妨害発話に基づく補助損失を用いたマルチモーダル目的話者音声認識, 角田 遼太, 相原 龍, 高島 遼一, 滝口 哲也, 今井 良枝, 日本音響学会 2021 年秋季研究発表会講演論文集, 1-3Q-6, pp. 1041-1044, 2021-09.

音響モデルの話者適応に基づく脊髄性筋萎縮症者の音声明瞭化の検討, 吉本 拓真, 高島 遼一, 佐々木 千穂, 滝口 哲也, 日本音響学会 2021 年秋季研究発表会講演論文集, 1-3Q-9, pp. 1053-1056, 2021-09.

Deep Decoder を用いた電流源推定, 山名 莉央, 矢野 肇, 高島 遼一, 滝口 哲也, 中川 誠司, 日本音響学会 2021 年秋季研究発表会講演論文集, 1-4P-8, pp. 715-718, 2021-09.

誤り訂正に基づく器質性構音障害者の音声認識精度向上の検討, 富士原 健斗, 高島 遼一, 杉山 千尋, 田中 信和, 野原 幹司, 野崎 一徳, 滝口 哲也, 日本音響学会 2021 年秋季研究発表会講演論文集, 2-3P-4, pp. 1081-1084, 2021-09.

Emotional Voice Conversion by Learning Disentangled Representations with Spectrum and Prosody Features, 陳 訓泉, 陳 金輝, 高島 遼一, 滝口 哲也, 日本音響学会 2021 年秋季研究発表会講演論文集, 2-3Q-9, pp. 1141-1144, 2021-09.

(小林)

Estimation of the Climate Change Effect on the Discharge for Sayogawa River by Multi Rainfall-runoff Models, Kenichiro KOBAYASHI, Yuiko KAWABE, Atsushi TAMURA, Satoshi WATANABE, Toshikazu KITANO : AOGS 2021 virtual conference, 2021

Study on the Evacuation Time for Vulnerable People Considering Flooding, Bae Chang Yeon, Kenichiro Kobayashi : AOGS 2021 virtual conference, 2021

Flood Prediction with the JMA Runoff Index Model and 1000 Ensemble Weather Forecast, Tsutao OIZUMI, Le DUC, Kenichiro KOBAYASHI, Takuya KAWABATA, Takuma OHTA, Kazuo SAITO : AOGS 2021 virtual conference, 2021

2020年7月球磨川の洪水を対象とした1000メンバーアンサンブル洪水予測, 大泉伝, Le Duc, 小林健一郎, 川畑拓矢, 太田琢磨, 斉藤和雄 : 水文水資源学会 2021 年度研究発表大会, 2021

荒川流域における気候変動による確率水水量の変化分析, 丸山 恭介, 小林 健一郎, 田中 規夫, 渡辺 哲史, 北野 利一 : 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021

気候変動の影響を考慮した淀川流域を対象とした洪水リスク評価, 北田雄広, 小林健一郎, 渡辺 哲史, 北野 利一 : 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021

低平地の浸水状況を考慮した災害弱者の避難時間検討に関する研究, Bae Chang Yeon, 小林健一郎 : 令和3年度土木学会全国大会第76回年次学術講演会, 2021

(岩田)

新型コロナウイルス感染症の現状と課題, 岩田健太郎, 第5回日本老年薬学会学術大会(オンライン), 2021.5

COVID-19から学んだこと, 岩田健太郎, 第21回日本抗加齢医学会(オンライン), 2021.6

コロナ時代の抗菌薬適正使用, 岩田健太郎, 第36回日本環境感染学会総会(オンライン), 2021.9

救急診療における抗菌薬適正使用について, 岩田健太郎, 第49回日本救急医学会総会・学術集会(オンデマンド), 2021.11

新型コロナウイルス感染症, 岩田健太郎, 第65回内科学会四国支部生涯教育教育講演会 (オンライン), 2021.12

(大路)

特別企画「AI 画像解析を利用した外科感染症診療補助システム」, 第34回日本外科感染症学会学術集会, 2021.12

16. 研究指導

16.1 博士論文

リスク・アセスメント研究部門

控え杭の応力照査を可能とする控え直杭矢板式岸壁の簡易耐震性能照査法の開発

宮下健一郎，工学研究科市民工学専攻，神戸大学博士（工学），主査：長尾 毅，副査：森川英典，芥川真一

An Empirical Study on the Community Based Disaster Management Framework with the Cyclone

Preparedness Program in Bangladesh (バングラデシュにおけるサイクロン準備プログラムによるコミュニティ防災の枠組みに関する実証的研究)，CHAKMA SWARNALI，国際協力研究科地域協力政策専攻，神戸大学博士（学術），主査：北後明彦，副査：松並潤，金子由芳，近藤民代

高齢者施設での搬送避難における所要時間分布に関する研究－2018年西日本豪雨時の対応事例分析を通じて－，廖解放，工学研究科建築学専攻，神戸大学博士（工学），主査：北後明彦，副査：山崎寿一，槻橋修

地域で取り組むまちなか防災空地事業を通じた木造密集市街地の更新メカニズムに関する研究，清水隆平，工学研究科建築学専攻，神戸大学博士（工学），主査：北後明彦，副査：孫玉平，近藤民代

A Study on the development of fire safety educational project for occupants of multi-story residential

building (中高層住宅居住者向け火災安全教育に関する研究)，馬致遥，工学研究科建築学専攻，神戸大学博士（工学），主査：北後明彦，副査：孫玉平，大津暢人

A Study on the Gathering Spaces in the process of Community Recovery in GEJET-2011 Affected

Areas (東日本大震災の被災地でのコミュニティ復興における集合スペースに関する研究)，GHEZELLOO YEGANE，工学研究科建築学専攻，神戸大学博士（学術），主査：北後明彦，副査：阪上公博，槻橋修

A Study on Prediction of Evacuation Preparation Time Based on Factors Affecting Households'

Evacuation Decision in Response to Cyclone in Bangladesh (バングラデシュにおけるサイクロン災害時の世帯での避難意思決定要因に基づく避難準備時間の推定)，MD ATIKUR RAHMAN，神戸大学博士（学術），主査：北後明彦，副査：阪上公博，小林健一郎

地域福祉による災害時要配慮者の避難支援に関する研究，劉永恩，工学研究科建築学専攻，神戸大学博士（工学），主査：北後明彦，副査：山崎寿一，阪上公博，大津暢人

韓国における地域特性を考慮した洪水避難に関する研究 -避難シミュレーションと河川特性による分類を通じて-，Bae Changyeon，工学研究科市民工学専攻，神戸大学博士（工学），主査：小林健一郎，副査：大石哲，中山恵介，内山雄介

16.2 修士論文

リスク・アセスメント研究部門

吸水膨潤過程におけるベントナイト緩衝材の表面流速と浸食量の関係，吉村侑起，神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻（橘・飯塚・竹山）

自然湧水環境下でのベントナイト緩衝材の膨潤挙動シミュレーション, 浅野 進, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 (飯塚・竹山・橘)

間隙中の水蒸気移動を考慮した不飽和締固めベントナイトの変状解析, 有井拓也, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 (竹山・飯塚・橘)

地盤応答解析コードのGPU並列化と液状化解析, 堂ヶ原健, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 (竹山・飯塚・銭谷)

宇宙プラズマ中の密度非対称条件下での磁気リコネクションのMHDシミュレーション, 山本百華, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 (飯塚・銭谷・橘)

Spatiotemporal distributions of interplate coupling in Tohoku, northeast Japan, for 14 years prior to the 2011 Tohoku-Oki earthquake inverted from GNSS data, 阿部 大毅, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻 (吉岡)

地震活動に基づく地下の応力変化の推定, 卯川知希, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻 (廣瀬)

スロースリップイベントからみた、プレート間すべりの長期的な活動パターンの変化, 中條尚哉, 神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻 (廣瀬)

リスク・マネジメント研究部門

the University Involvement on the Post Disaster Livelihood, Local Economy and Resilient Community Recovery: Case Study in Lombok Indonesia, Eliya Amilati Hanafi, 神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻 (北後)

Influencing Factors and Community Cooperation in Evacuation of the Elderly Welfare Facilities During the Heavy Rain in July 2020, Wang Fujun, 神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻 (北後)

感染症と自然災害との複合災害時における分散避難に関する研究－住民選択型と行政主導型を通じて－, 羅琳莉, 神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻 (北後)

人と人の結節点である交流空間が生み出す被災地復興に関する研究－東日本大震災後の地域主導組織の活動を実例として－, 松下拓真, 神戸大学大学院国際協力研究科地域協力政策専攻 (北後)

Hashed Community－それぞれの居場所を求めて－, 丸山拓弥, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

コンクリート充填鋼管柱の復元力特性モデルの提案, 川端智哉, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 (藤永)

梁貫通形式CFT柱梁接合部に関する研究, 土居晃基, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 (藤永)

孔あき鋼板ジベルを用いたCFT柱継手に関する研究, 長岡優花, 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻 (藤永)

深層地盤の影響を考慮したスペクトル応答加速度の評価精度向上, 胡 天躍, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 (長尾)

リスク・コミュニケーション研究部門

物理シミュレーションと深層学習による金属・樹脂界面の密着度強化のための構造最適化, 黄伊莎, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻 (滝口・高島)

CPU 上でリアルタイム合成可能なニューラルボコーダの研究と構音障害者音声合成への応用, 松原圭亮, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻 (滝口・高島)

事前学習済み言語モデルを用いた知識グラフ検索に基づく対話システム, 佐良和孝, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻 (滝口・高島)

自己教師あり学習と疑似ラベリングのマルチタスク学習を用いた構音障害者音声認識, 澤佑哉, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻 (滝口・高島)

スタイル変換によるドメイン適応を用いた神経細胞画像セグメンテーション, 長谷川貴大, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻 (滝口・高島)

妨害発話環境下を考慮したマルチモーダル音声認識モデルの学習方式, 角田遼太, 神戸大学大学院システム情報学研究科計算科学専攻 (滝口・高島)

Scene Text Recognition Based on the OCR Model and Regular Expression Parsing, Yihao Zhang, 神戸大学大学院システム情報学研究科情報科学専攻 (滝口・高島)

SPHシミュレーションによる火砕流の運動メカニズムに関する研究, 吉木光軌, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 (大石・梶川)

大規模粒子法を用いた実斜面崩壊シミュレーションに関する研究, 平田紗椰, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 (大石・梶川)

水害による車両損害額推定のための高精度標高データの分析, 北田雄広, 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 (小林)

16.3 卒業研究

リスク・アセスメント研究部門

アラスカ沈み込み帯における3次元温度構造モデリング, 岩本 佳耶, 神戸大学理学部惑星学科 (吉岡)

2018~2019年豊後水道長期的SSEのすべりの時空間分布の推定, 瀬下 幸成, 神戸大学理学部惑星学科 (吉岡)

地域防災力を志向したソーシャルキャピタルが防災意識に与える影響の構造分析~兵庫県相生市を事例として~, 北里啓吾, 神戸大学工学部市民工学科 (橘・祇園)

地上電磁災害予測のための数値モデルの開発:三次元効果及び電気伝導度の影響, 森野直毅, 神戸大学工学部市民工学科 (竹山・銭谷)

深層学習を使った太陽フレア予測モデル Deep Flare Net の性能評価, 大沢健斗, 神戸大学工学部市民工学科 (竹山・銭谷)

ニューラルネットワークによる過圧密比深度分布推定のための検討, 高木亨丞, 神戸大学工学部市民工学科 (竹山・橘)

SPH 法へのカムクレイモデルの導入と検証, 佐野峻也, 神戸大学工学部市民工学科 (竹山・橘)

デコルマ帯形成粘土の脱水を伴う変質過程における体積ひずみの定式化, 加藤元帥, 神戸大学工学部市民工学科 (橘・飯塚)

データ変換・統合技術を用いた防波堤の設計業務の工数削減, 末久泰史, 神戸大学工学部市民工学科 (橘・飯塚)

粘性土の一次元圧密における載荷直後の時間依存性挙動の考慮, 高橋大輝, 神戸大学工学部市民工学科 (竹山・飯塚)

民間企業による国土強靱化への ESG 投資の検討, 野村拓馬, 神戸大学工学部市民工学科 (飯塚・竹山)

ディープラーニングによる物体検知技術YOLOv5を用いた図面要素抽出の研究, 出口直輝, 神戸大学工学部市民工学科 (飯塚・銭谷)

弾塑性解析における粘性境界条件に関する基礎的研究, 山口慶, 神戸大学工学部市民工学科 (飯塚・竹山)

宇宙プラズマ中の磁気リコネクションが生成する衝撃波構造の研究, 渡邊悠太郎, 神戸大学工学部市民工学科 (飯塚・銭谷)

ベントナイト緩衝材の原位置試験を対象とした側方向膨潤シミュレーション, 妹尾僚大, 神戸大学工学部市民工学科 (飯塚・橘)

リスク・マネジメント研究部門

根入れ式岸壁の耐震性能評価, 河野里奈, 神戸大学市民工学科 (長尾)

栈橋の水平荷重抵抗性能評価, 清水春花, 神戸大学市民工学科 (長尾)

水平荷重を受ける杭の抵抗性能, 春名 優佑, 神戸大学市民工学科 (長尾)

堤防空間の再考, 藤原一樹, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

氾濫原内の基盤整備に伴う開発と被害の関係についての検証ー平成 30 年 7 月豪雨で被害を受けた倉敷市真備町を対象にー, 水島大輝, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

かさなる、ふるさとー地域内二拠点居住から移住へー, 中谷友洋, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

自然に沿うー高知県黒潮町における宿泊機能付き道の駅の提案, 藤目承太郎, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

Hashed Communityーそれぞれの居場所を求めてー, 丸山拓弥, 神戸大学工学部建築学科 (北後)

梁貫通形式円形 CFT 柱梁接合部の構造性能に及ぼす軸力と径厚比の影響に関する研究, 本田烈, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

角形 CFT 柱の終局曲げ耐力評価法, 藤田雅佳, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

鋼管拘束下の孔あき鋼板ジベルの引き抜き耐力に及ぼす孔形状の影響に関する実験的研究, 土谷健太, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

薄肉鋼管で横補強した鋼・コンクリート合成柱に関する実験的研究, 山岡幸喜, 神戸大学工学部建築学科 (藤永)

リスク・コミュニケーション研究部門

深層学習に基づく神経細胞のカルシウムイメージングデータの解析, Jo Taehee, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

脊髄性筋萎縮症者の音声認識におけるテキスト音声合成によるデータ拡張, 松坂勇樹, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

話者同士の個性を考慮した非タスク指向型対話システム, 三ツ石紀, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

StyleGAN Inversion を用いたテキスト指示による顔画像生成, 成浦拓音, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

オペラ歌声合成におけるニューラルボコーダの比較評価, 清水聡太, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

日本の水力発電効率化のための機械学習を用いたダム流入水量予測, 吉見圭祐, 神戸大学工学部情報知能工学科 (滝口・高島)

土石流災害シミュレーションにおけるデータの自動構築に関する研究, 佐々木理貴, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

降水粒子の電磁波散乱と粒径分布の関係性導出に関する研究, 松島知樹, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

移流特性の分類による予測信頼度情報を用いた短時間降雨予測に関する研究, 樋口廉, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

大気大循環モデルと雲解像モデルを用いたアジアモンスーンの再現性比較に関する研究, 瀧口諒, 神戸大学工学部市民工学科 (大石・梶川)

水災害時の車両被害軽減のための漂流シミュレーション, 前田喬之, 神戸大学工学部市民工学科 (小林)

京都府亀岡市桂川流域における伝統的治水工法の効果についての研究, 大畑萌, 神戸大学工学部市民工学科 (小林)

付録 センター活動の報道記録

新型コロナ変異株 最大の懸念とは 感染スピード、死亡リスク、ワクチンの効果は
岩田健太郎先生

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 4/5)

・第4波抑制へ躍起 「緊急事態」より効力弱く (コメント: 岩田健太郎・神戸大大学院医学
研究科教授)

(毎日 4/9 朝刊)

大路剛先生 NEWS×情報 キャッチ+ ご出演

(サンテレビ 4/13)

アプリに没頭、60万円課金 心の病気だという理解が必要 生きづらさ、しんどさが起因
(神戸大大学院医学研究科・曾良一郎教授)

(神戸 4/14 朝刊)

会食時のうちのわの効果、そもそも科学的根拠は? 兵庫県知事が挙げた「フェイスシールド」
を調べてみた

(まいどなニュース 4/15)

新型コロナ 発表5日後撤回「うちのわ配布計画」迷走の経緯 「マスク会食」に対抗か (コ
メント: 坪倉誠・神戸大教授、岩田健太郎・神戸大教授)

(毎日 4/18 朝刊)

岩田健太郎医師が日本のコロナ対策に苦言 「第4波は来るべくして来た」

(AERA dot.4/20)

「日本も感染ゼロを目指すべき」 岩田健太郎医師が提案する都道府県ごとのコロナ対策

(AERA dot.4/20)

【識者の眼】「アドバンス・ディレクティブを」 岩田健太郎

(日本医事新報社 4/26)

丹波の川 南北どっちへ向かう? 「水分れ」境に流れ逆転 (コメント: 小林健一郎・神戸
大准教授)

(読売 5/9 朝刊)

オリンピックは開催できるか 岩田健太郎先生

(BLOGS 5/10)

神戸大学コラム 安心の素 52

天気予報 人工知能で進化 都市安全研究センター 特命助教 山浦剛

(神戸 5/17 朝刊)

PCR 検査「感度 70%は誤判定が多い」…医師に求められる対応 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 5/19)

五輪開催「ばかげた考え」 米有力紙、接種遅れも指摘

神戸大の岩田健太郎教授（感染症学）のコメントとして、新型コロナの治療に関わる医療関係者にとり開催は「ばかげた考えだ」とした。

(共同通信 5/20)

プロトコルベースとアウトカムベース。前向きと後ろ向き。三人称と一人称。岩田健太郎先生

(BLOGS 5/23)

微熱と咳、症状はあるのに…医師が PCR 検査を受けさせない人 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 5/26)

【識者の眼】「ワクチンの楽観、変異株の悲観」岩田健太郎先生

(日本医事新報社 5/31)

国内のコロナワクチン接種、オリンピック控え加速— 2 週間で 4 倍

過去に日本のワクチン接種のスピードは途上国並みだとコメントしていた神戸大学の岩田健太郎教授（感染症内科）は、「ワクチン接種自体については過去と違いとても良い」と述べた。

(Bloomberg 6/2)

コロナから回復したのに隔離？医師が「正しい」と考える理由 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 6/2)

東京五輪が影響？ 新型コロナ 日本がワクチン接種に「本気を出した」ワケ

岩田健太郎先生

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 6/7)

歴史探検 「秀吉 中国大返し」 梶川義幸先生ご出演

(NHK 6/9)

身に覚えがない PCR 陽性は「ほぼ間違い」であるとする根拠 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 6/9)

ワクチン接種と変異ウイルスのスピード勝負 感染症専門医が五輪を延期したほうがいいと考える理由 岩田健太郎先生

(BuzzFeed Japan 6/10)

「説明しない態度を許してきたのは国民」 感染症専門医が見た五輪で変わったこと、変わらないこと 岩田健太郎先生

(BuzzFeed Japan 6/11)

感染症医が解説…「全国の入院患者すべてに PCR 検査」は有害 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 6/16)

積乱雲が次々と 豪雨災害の原因に一「線状降水帯」発生を速報 (コメント: 大石哲教授)

(神戸 6/21 朝刊)

お祭りムードで感染拡大の恐れ 神戸大教授 岩田健太郎氏

(神戸 6/22 朝刊)

検査は間違える！PCR よりも主観を重視する理由【医師が解説】 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 6/23)

医学部の学びは「習い事」なのか 岩田健太郎先生

(BLOGOS 6/23)

【識者の眼】 「“バブル” の概念理解ができていない」 岩田健太郎先生

(日本医事新報社 6/25)

コロナ問題が人々を「極端にする」理由【感染症医が解説】 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 6/30)

五輪バブル方式は穴だらけ？デルタ株流行で都内感染者 1 日 3000 人予測も 岩田健太郎先生

(NEWS ポストセブン 7/1)

岩田健太郎氏「万にひとつでも東京五輪が成功すると日本の感染症対策が死ぬ」【私が東京

五輪に断固反対する理由】

(日刊ゲンダイ DIGITAL 7/3)

新型コロナ「反ワクチン本」は「言論の自由」なのか 岩田健太郎先生

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 7/5)

大石 哲先生 NEWS×情報 キャッチ+ インタビュー出演
静岡の土石流災害と、神戸における土砂災害について

(サンテレビ 7/5)

「レジのビニールシートは消毒の必要なし」感染症医が語る理由 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 7/7)

【岩田健太郎教授が緊急解説】五輪は無観客なのに…欧米のスポーツイベントは「なぜ有観客OK？」

(SmartFLASH 7/9)

ひょうごの医療 発熱、コロナとの判別困難 脱水や高温の環境 我慢は禁物 神戸大病院救命救急センター長 小谷穰治教授

(神戸 7/11 朝刊)

病院の「コロナ感染者エリア」ビニールの仕切りが危険なワケ【医師が解説】岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 7/14)

【依存社会】精神科専門医・曾良一郎教授に聞く 時間かけ治療の動機付けを

(神戸 7/14 朝刊)

「情報ライブ ミヤネ屋」に岩田健太郎先生リモートご出演

(読売テレビ 7/16)

感染治療学専門家 濃厚接触者五輪出場可能に「危うい方法、かなりのギャンブル」
岩田健太郎先生

(デイリー 7/16)

コロナ対策「マスクは本当に効果があるのか？」感染症医の答え 岩田健太郎先生

(幻冬舎 GOLD ONLINE 7/21)

感染症診療と医師の未来像—100年の歴史を踏まえ～岩田健太郎 [創刊100周年記念特集 感染症の100年]

(日本医事新報社 7/21)

神戸大学コラム 安心の素 53

GPSで「断層のずれ」解明 都市安全研究センター 准教授 廣瀬 仁

(神戸 7/26 朝刊)

五輪関係者のコロナ感染、5日連続で2桁—「バブル」効果疑問も 岩田健太郎先生

(bloomberg 7/26 朝刊)

ゴールポストを動かした? 「無症状感染者は6日経過 2回のPCR検査陰性で隔離解除」は正しいのか

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 7/28)

【識者の眼】「バブルとダイヤモンド・プリンセス」 岩田健太郎先生

(日本医事新報社 7/27)

神戸大岩田教授 東京の入院調整中患者が激増、1万人に近づくと「医療かなり危ない」

(デイリー 7/30)

感染症専門家「菅首相が五輪中止を提案すべき」 人流抑制の究極の条件 岩田健太郎先生

(デイリー 7/30)

ゲーム依存、コロナで悪化 神戸大大学院・曾良教授に聞く

(毎日 8/2 朝刊)

岩田健太郎医師 五輪の感染対策「言語道断」の3つの問題といま必要な対策とは?

〈AERA〉

(AERAdot.8/7)

岩田健太郎医師が感染爆発に警鐘「がれきの下の1万人」と「パラ中止」の最悪のシナリオ

(AERAdot.8/7)

ロックダウンは「非常にパワフルな感染抑止策」 岩田健太郎教授が自説「ただし…『だけ』で全てが解決しない」

(中日スポーツ 8/14)

特集：新型コロナの感染爆発は、どう関連したのか?! 岩田健太郎先生ゲスト出演
(情熱報道ライブ ニュース・オペエド 8/16)

抗体カクテル療法 新型コロナ軽症者の重症化を防ぐ 医療崩壊を食い止めるカギに
(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 8/18)

パラリンピック学校観戦、本当にやるの? 「今の感染状況かなり悪い」 尾身茂会長は慎重な対応求める 岩田健太郎先生
(中日スポーツ 8/19)

岩田健太郎教授 感染症を守りつつ妊娠出産をサポートできる病院は希有
(デイリー 8/20)

「ワクチン2回」の表現はハラスメントか? 岩田健太郎氏がSNS上の論争に持論
(東スポ Web 8/23)

迫られる「自宅療養」 新型コロナ 医療の問題、一気にあらわ 岩田健太郎さん(感染症内科医)
(朝日 8/24 朝刊)

岩田健太郎教授、医学部の定員に感染症・救急の指定枠を設ける方針に「絶対にやめたほうが良い」
(スポーツ報知 8/24)

猛威を振るうデルタ株 特徴やワクチンの効果は? 神戸大学感染症内科医に聞く 大路剛先生
(NEWS×情報キャッチ+ 8/24)

強まる都市封鎖「ロックダウン」論 感染拡大、対策手詰まり 岩田健太郎先生
(北海道新聞 8/30)

【識者の眼】「デルタ株は空気感染するのか」 岩田健太郎先生
(日本医事新報社 8/30)

岩田健太郎教授、麻生財務相の” コロナ収束” 発言に憤慨「日本のインテリって、ああいうオラオラ系に弱すぎる」
(中日スポーツ 9/8)

岩田健太郎医師が語る子どもの感染対策 「家庭内感染対策は難しい」 「周囲の大人がワクチンを」

(AERA 9/10)

岩田健太郎医師が問う「医療崩壊」と「ワクチン後」 「犠牲者数も考えて経済活動再開の議論を」

(AERA 9/11)

ゲーム 反響 まず楽しさの理解と共感から 神戸大教授 (精神医学) 曾良一郎

(読売 9/11 朝刊)

「ワクチンには有効期限がある」感染症学の権威・岩田健太郎教授が提唱するゼロ・コロナ作戦

(FLASH 9/15)

「矛盾なき科学的な発信を」菅首相就任1年 理想のリーダー像とは 神戸大大学院教授の岩田健太郎さん

(神戸新聞 9/16)

神戸大学コラム 安心の素 54

事前調査でインフラ減災へ 大学院工学研究科准教授 三木朋広

(神戸 9/18 朝刊)

岩田健太郎医師「感染爆発を押さえた西浦博先生の『本当の貢献』とは」【緊急連載①】

(BEST TIMES 9/21)

コロナの急激な収束をもたらしたのは何か？ ワクチン、自粛、それとも…岩田健太郎先生

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 9/30)

リバウンド第6波に強い警戒感「病床増は足し算、感染者増は掛け算」 過去2回、宣言解除後2週間で増加に (岩田健太郎先生)

(神戸新聞 NEXT 9/30)

【識者の眼】 「臨床診断は誰のもの」 岩田健太郎先生

(日本医事新報社 10/16)

「潜在性結核症」 治療基準改正への疑問 最新のエビデンスが反映されず岩田健太郎先生
(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 11/1)

「かんさい熱視線」に小林健一郎先生ご出演
(NHK 11/19)

【識者の眼】「対面会議よ、さようなら」岩田健太郎先生
(日本医事新報社 11/13)

神戸大学コラム 安心の素 55
「音」で異常検知し見守り 都市安全研究センター准教授 高島遼一
(神戸 11/22 朝刊)

HPV ワクチン積極的勧奨再開へーキャッチアップをどう進めるか【まとめてみました】
岩田健太郎先生
(日本医事新報社 11/27)

新型コロナ変異株「オミクロン」 感染性の強さは？ ワクチンの効果は？ 岩田健太郎先生
(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 11/29)

(てんでんこ) 街の余韻を捜す 「うちにはええもんないで」続けたどぶ板訪問
——奥村弘神戸大教授
(朝日 12/1 朝刊)

オミクロン株特徴 県内専門家に聞く 神戸大大学院医学研究科 岩田健太郎教授
(神戸 12/10 朝刊)

時論公論「大阪 ビル放火 命を守るためには」北後先生ご出演
(NHK 12/20)

スーパーJチャンネル “既存不適格”とされる建物のリスクについて 北後先生ご出演
(テレビ朝日 12/21)

二方向避難できない「既存不適格」のリスク 大阪・北新地ビル火災
北後明彦先生
(産経 12/24 朝刊)

それでもオミクロン株には強固な対策が必要だと考える理由 岩田健太郎先生

(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 12/25)

排煙設備なく・階段1か所だけ…大阪の放火ビルは「既存不適格」

北後明彦先生

(読売オンライン 12/28)

大阪の雑居ビル放火殺人事件からの教訓 火災は壁伝いに逃げる

北後明彦先生

(Asahi Shimbun Weekly AERA 2022.1.3-10)

特集 新型コロナ感染症の診療 大路剛先生

(月刊神戸っ子 2022年1月号 1/1)

情報ライブ ミヤネ屋【独自解説】感染拡大“オミクロン株”に感染症専門医 岩田教授が
大胆提言 「あえて抑え込みをしないのも手」 「2類か5類かは問題ではない」岩田先生ご出演

(読売テレビ 1/14)

【識者の眼】「時間を稼いで、どうするの？」岩田健太郎先生

(日本医事新報社 1/15)

NHK スペシャル「見過ごされた耐震化 ～阪神・淡路大震災 建物からどう命を守るか～」

大石先生ご出演

(NHK 1/17)

重要性増す二方向避難 二段階での防火想定を 北後明彦氏 神戸大都市安全研究センター教授

(産経 1/19 夕刊)

かんさい情報ネット ten 大阪・京都・兵庫も“まん延防止”要請へ専門家に聞く

岩田健太郎先生ご出演

(読売テレビ 1/20)

【コロナ直言】犠牲どう許容「痛み」議論を 神戸大教授 岩田健太郎氏

(産経 1/23 朝刊)

「南アでピークアウトしたから日本でも」は本当か？ 岩田健太郎先生
(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 2/3)

「日本沈没」登場のスロースリップ解析 南海トラフ巨大地震の想定域 吉岡祥一先生
(朝日デジタル 2/5)

【識者の眼】「時間を稼いで、どうなった？」岩田健太郎先生
(日本医事新報社 2/5)

ぶらっとラボ ゆっくりなずれ 進む解析 吉岡祥一先生
(朝日夕刊 2/7)

今どきファクスって…コロナ集計にアナログの限界、大阪市1・2万人漏れ 「システム自体が問題」 神戸大・岩田氏
(産経 2/6)

SARSの幻想にしがみつく？ オミクロン国内流行 何のための水際作戦か
岩田健太郎先生
(YOMIURI ONLINE yomiDr.ヨミドクター 3/3)

岩田健太郎先生「山ほど専門家がいる分野ほどブレークスルーが起きない」日本の病理
(PRESIDENT Online 3/12)

岩田健太郎先生「競争社会で勝ち続ける人」ほど、じつは孤独で苦しいこれだけの理由
(PRESIDENT Online 3/15)

神戸大学コラム 安心の素 56
火災想定した建物利用を 都市安全研究センター教授 北後 明彦
(神戸 3/21 朝刊)

